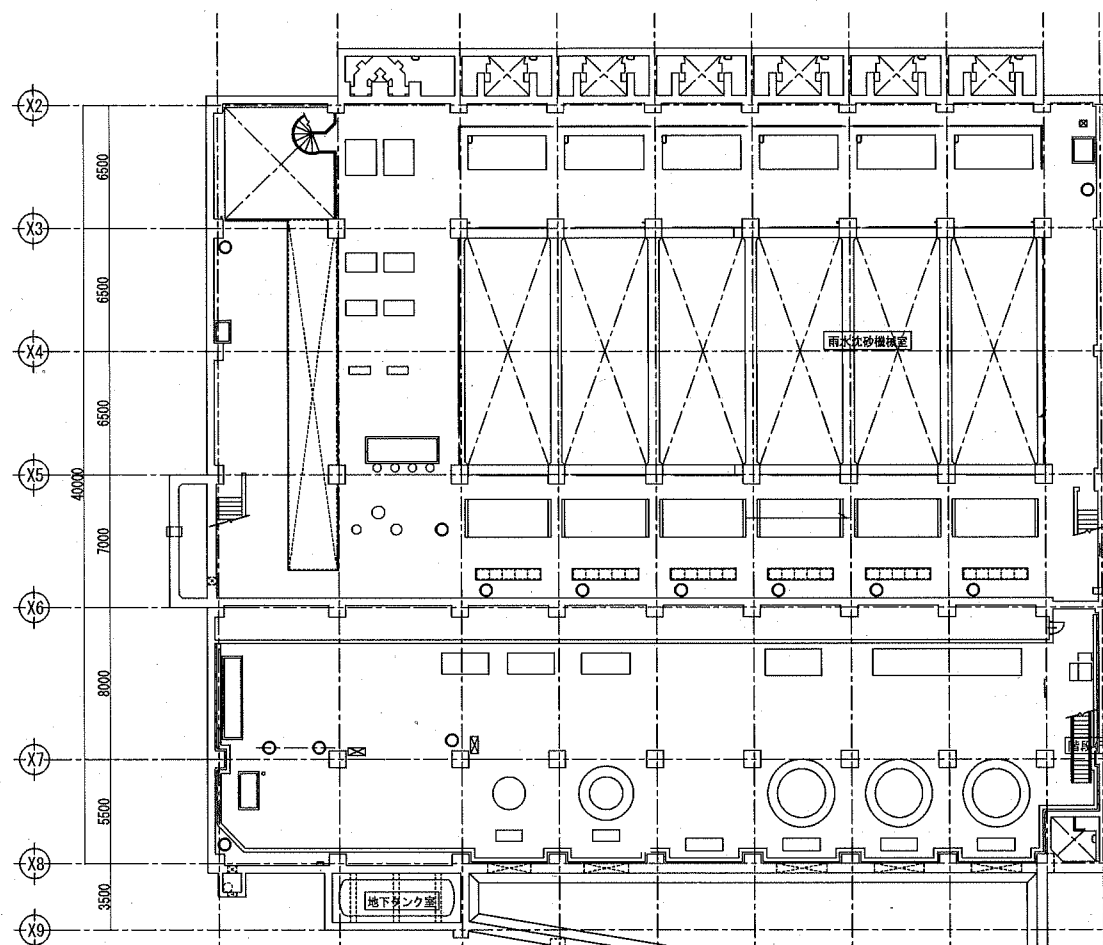


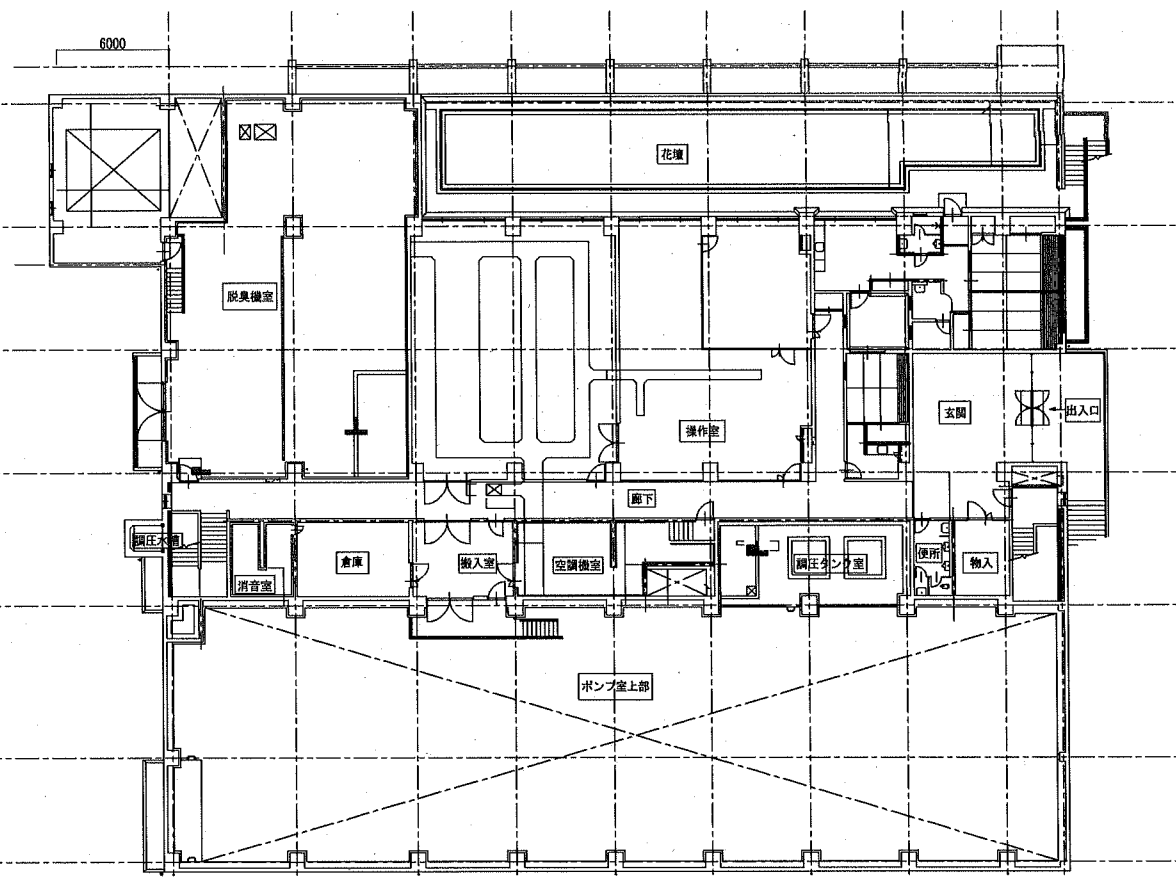
案内図

耐震改修対象建物を示す

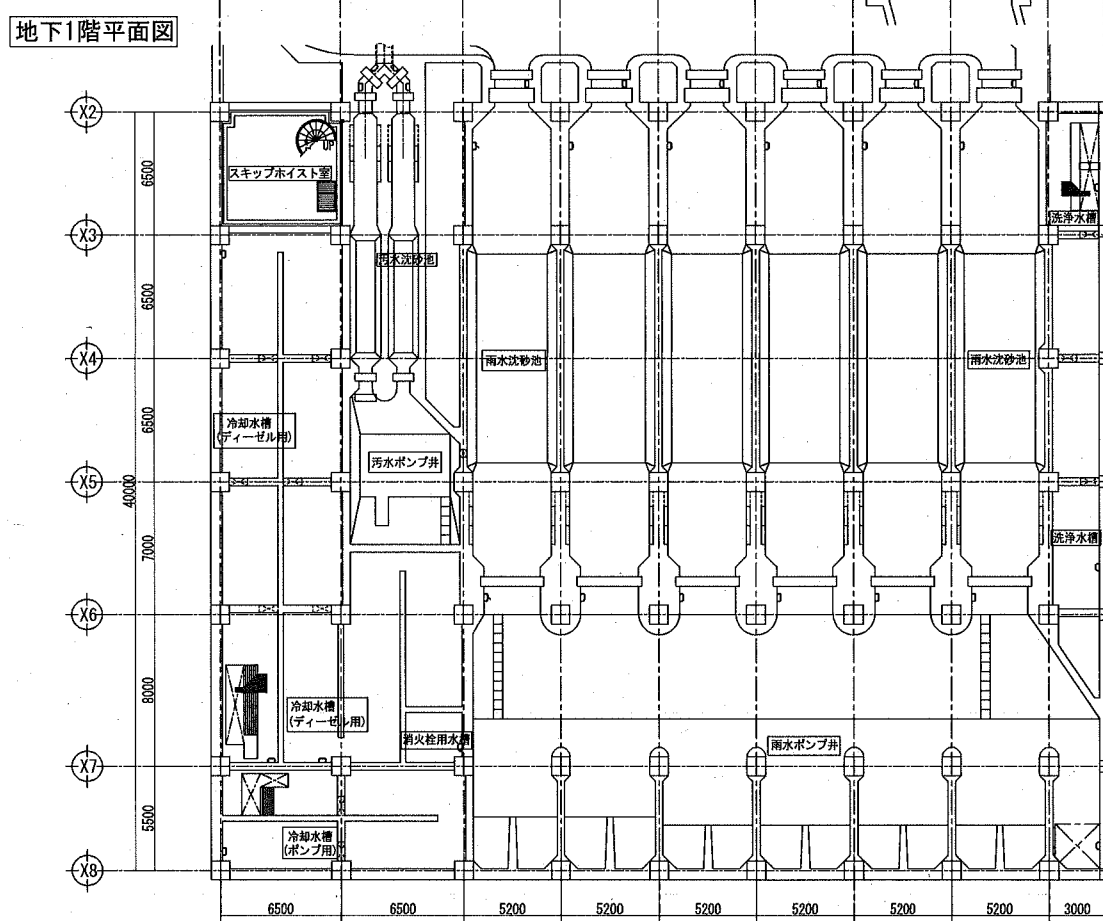
横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場	
図名	称	耐震補強建築工事	
縮尺	面積	配置図	
製年	図番	1:200	A-1
課長	係長	担当者	設計者



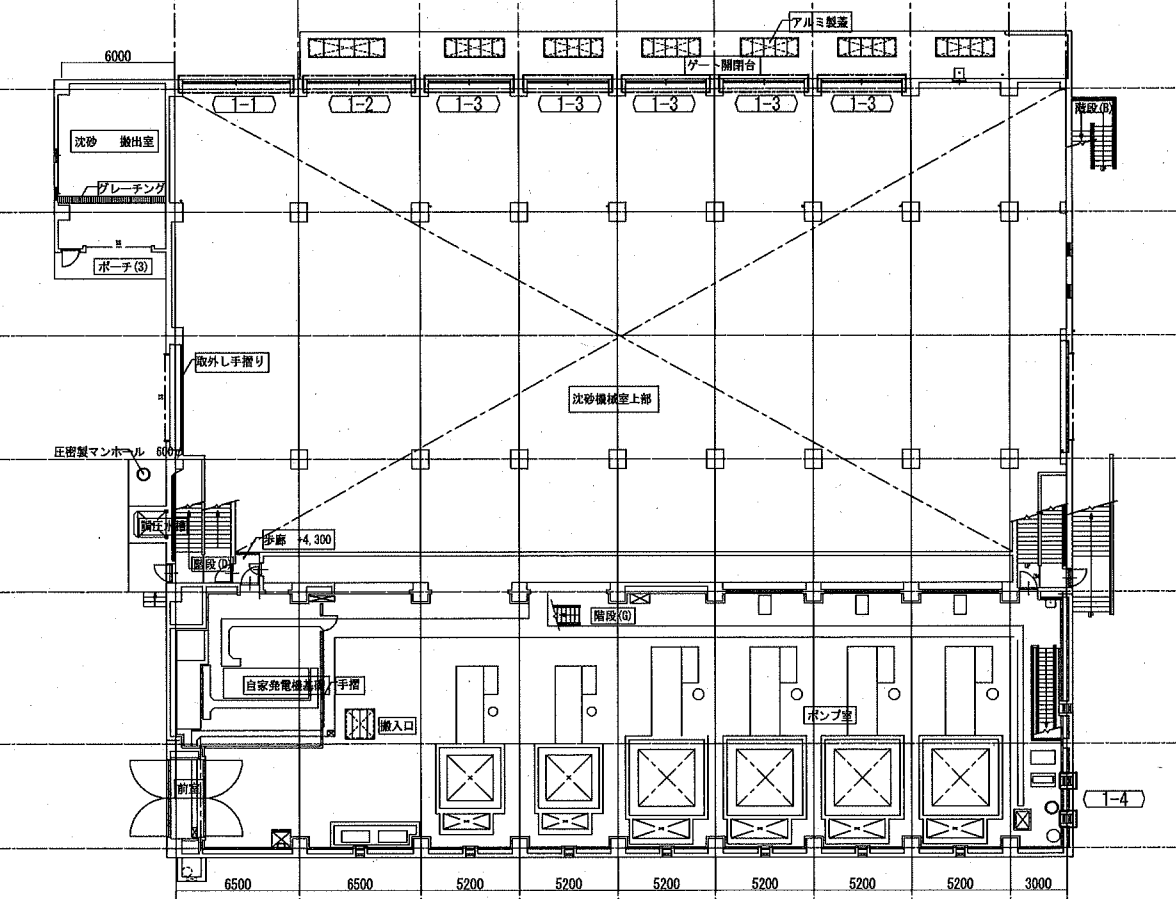
1階上部平面図



1階下部平面図

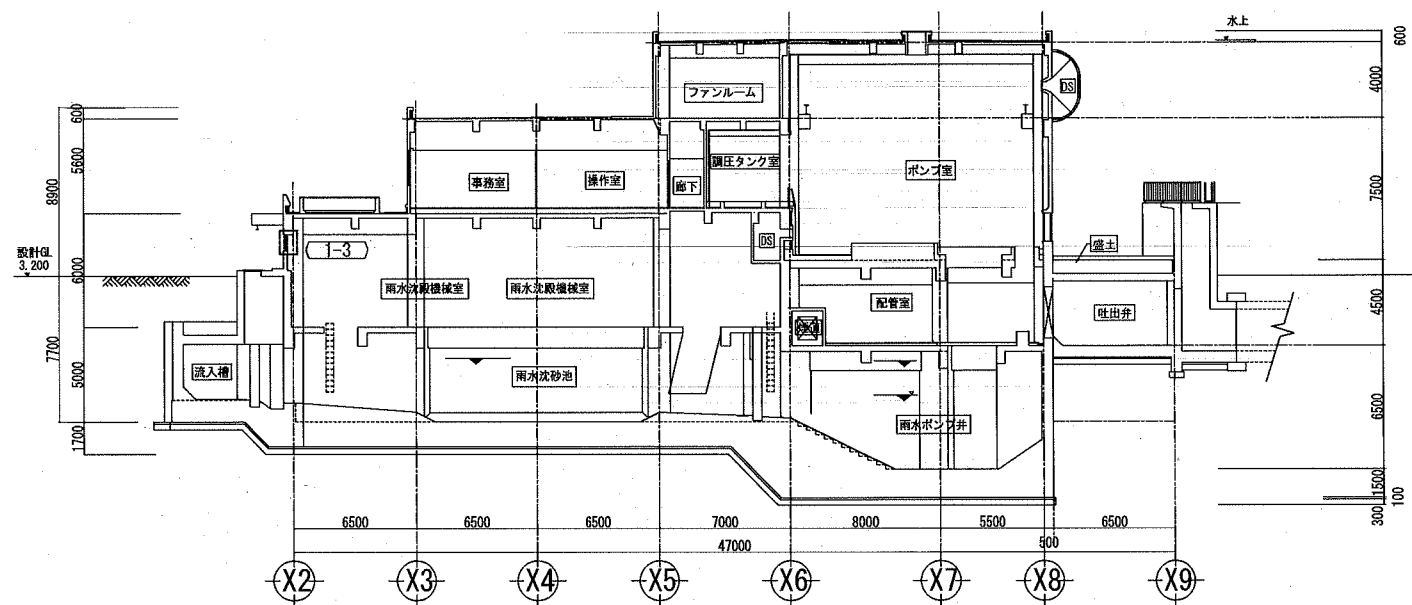


地下2階平面図

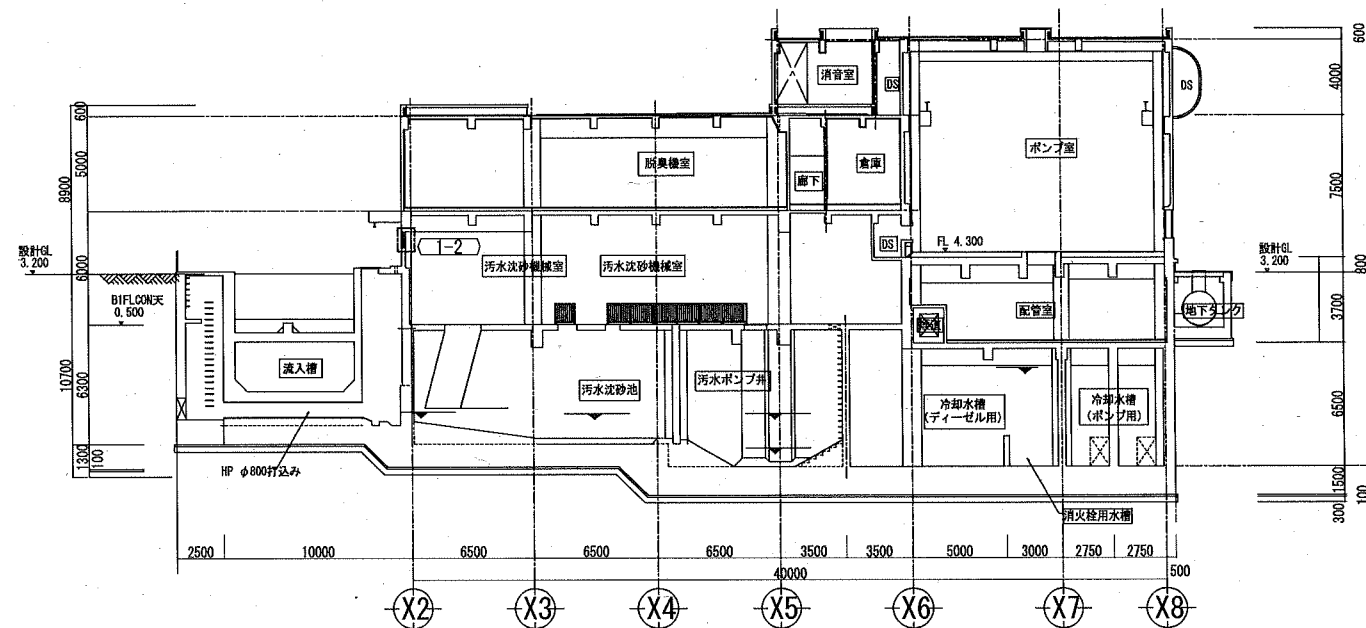


凡例  
 〇 本工事改修範囲  
 階数(内) 部位番号

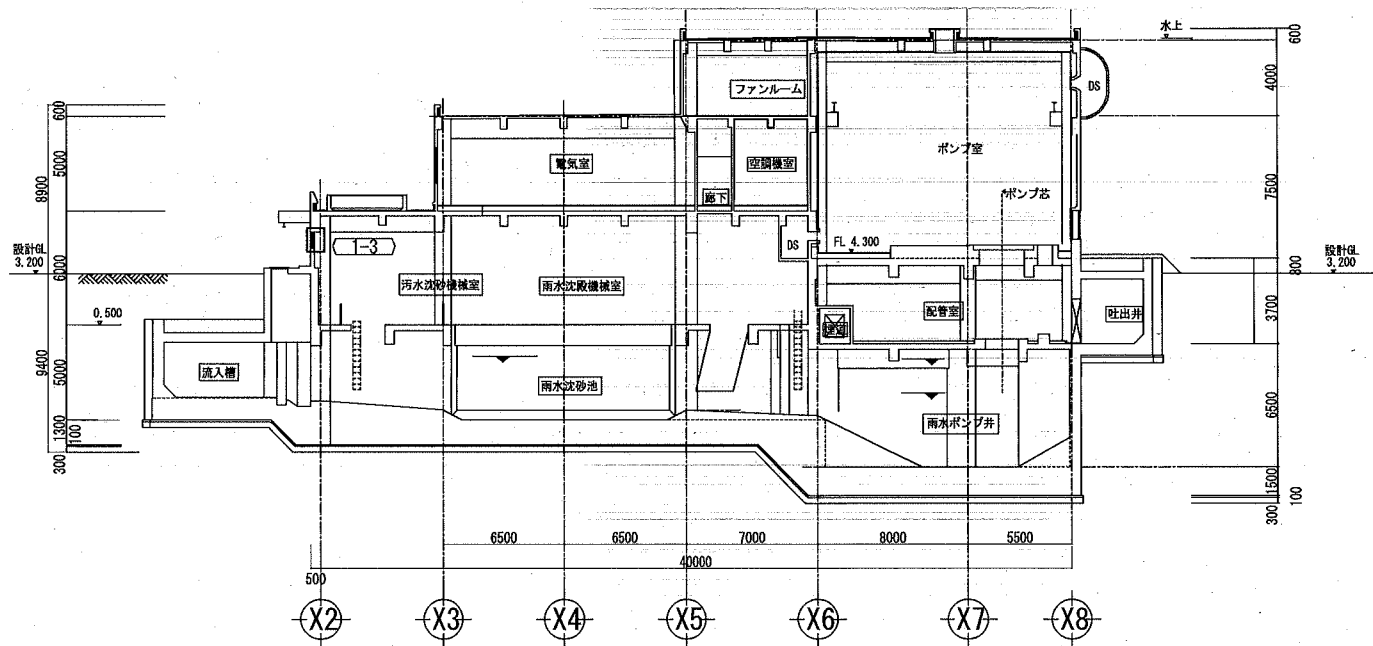
横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場	
図名	面	耐震補強建築工事	
縮尺	1:200	図番	A-2
製年	作月	令和2年8月	
課長	係長	担当者	設計者



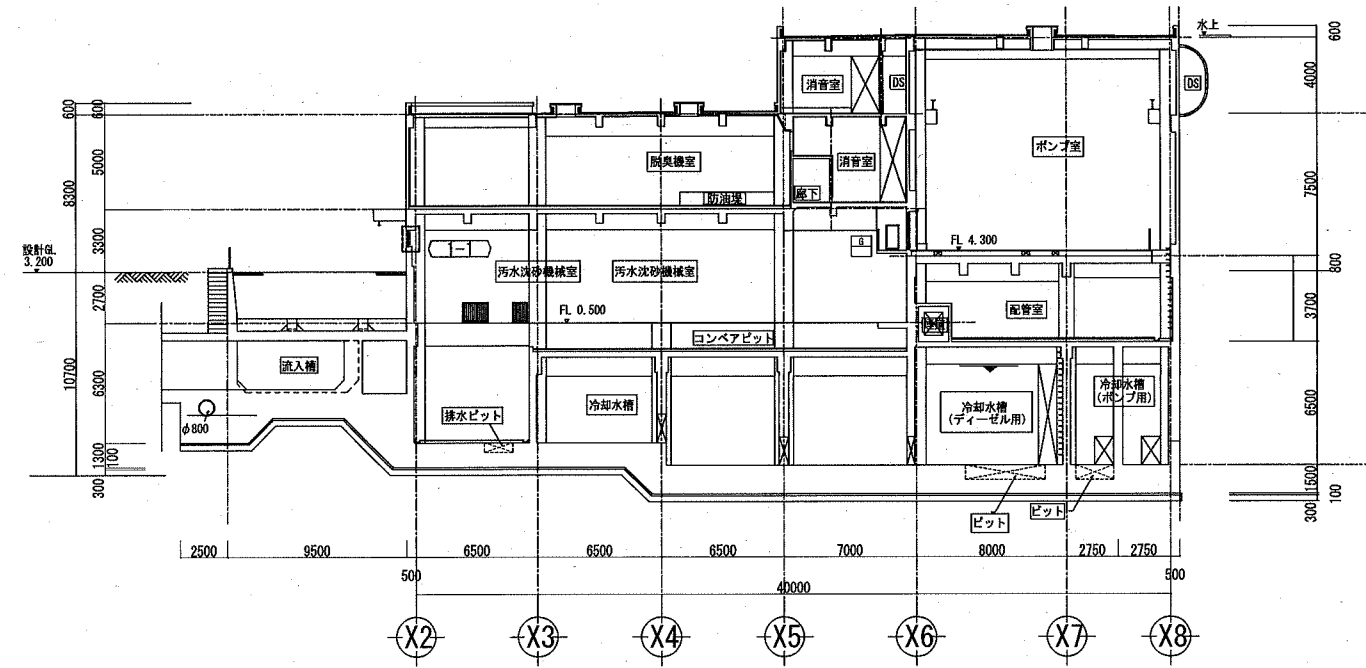
A-A断面図



C-C断面図



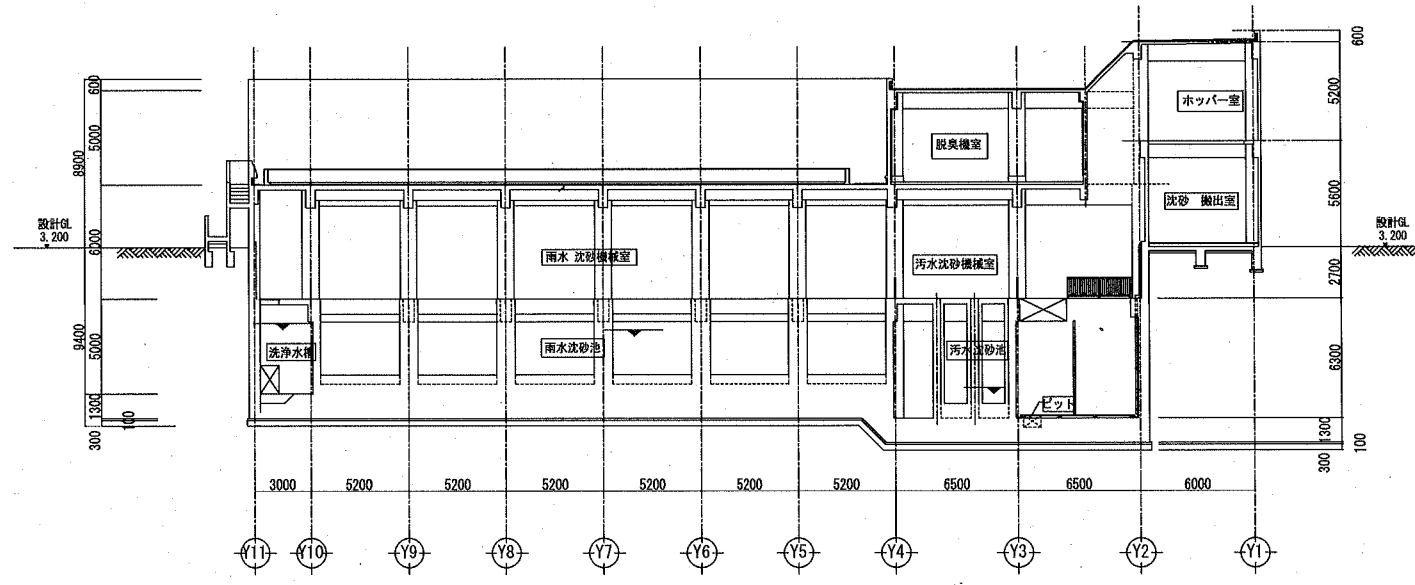
B-B断面図



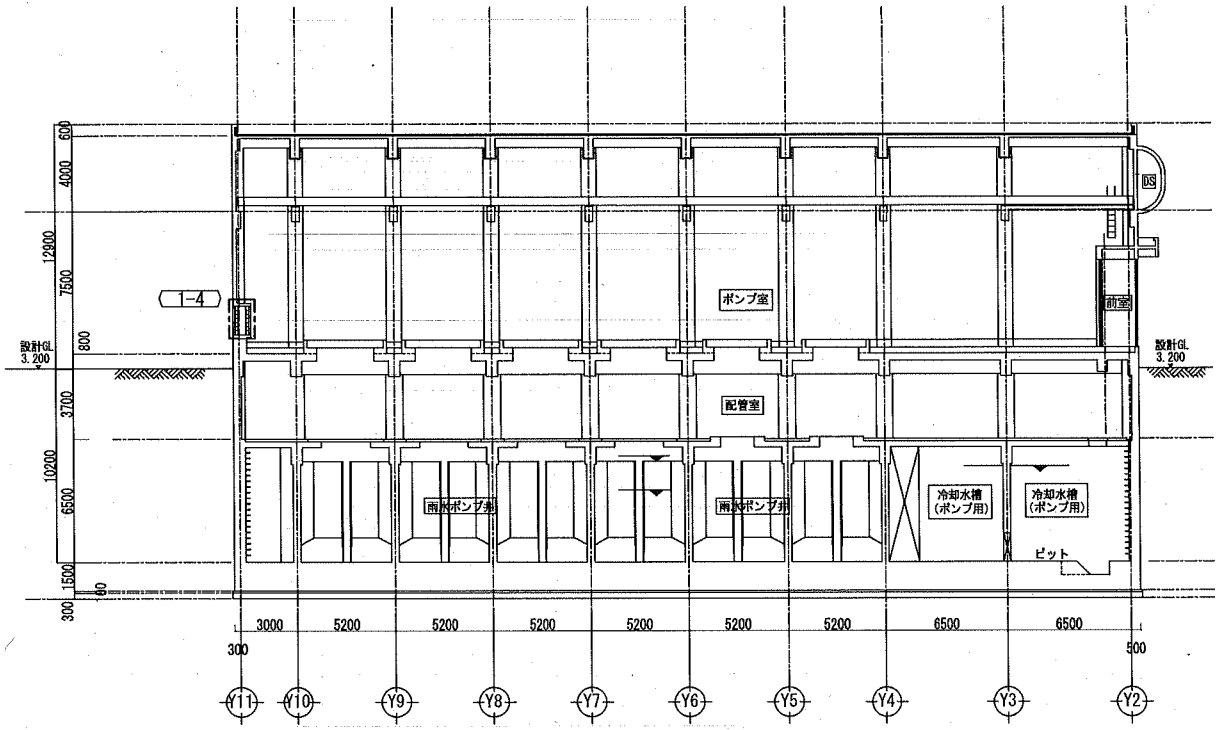
D-D断面図

凡例  
 本工事範囲  
 階数(N-N)部位番号

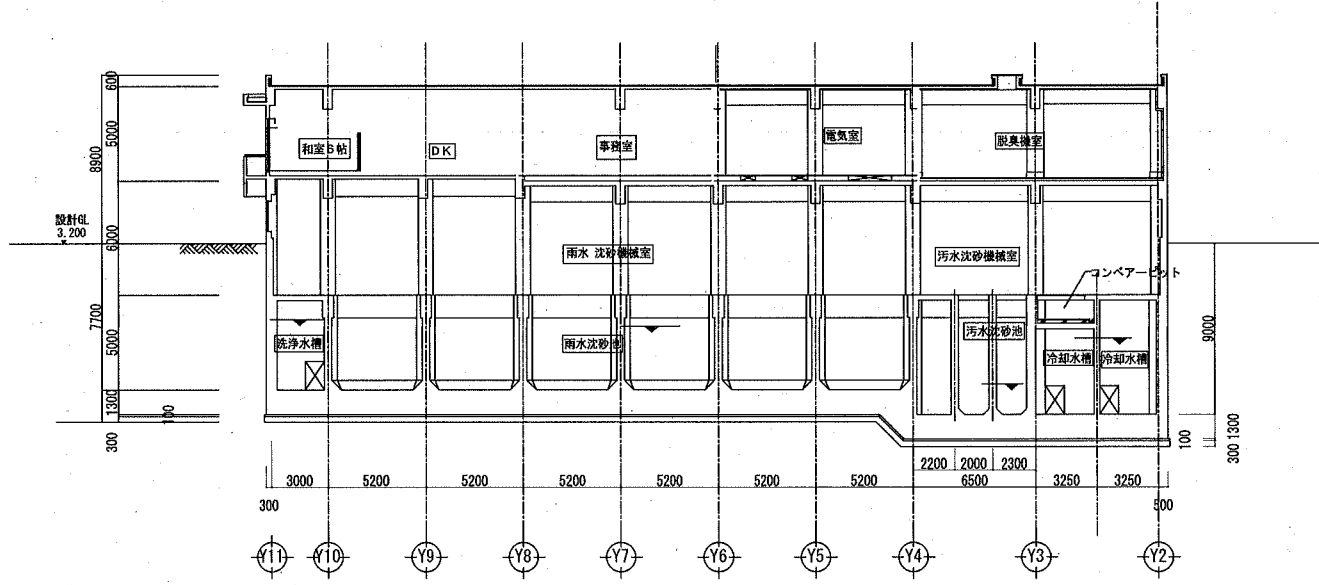
横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場	
図名	称	耐震補強建築工事	
縮尺	面	断面図(1)	
製年	作	1:200	面番 A-3
課長	係長	令和2年8月	
	担当者		設計者



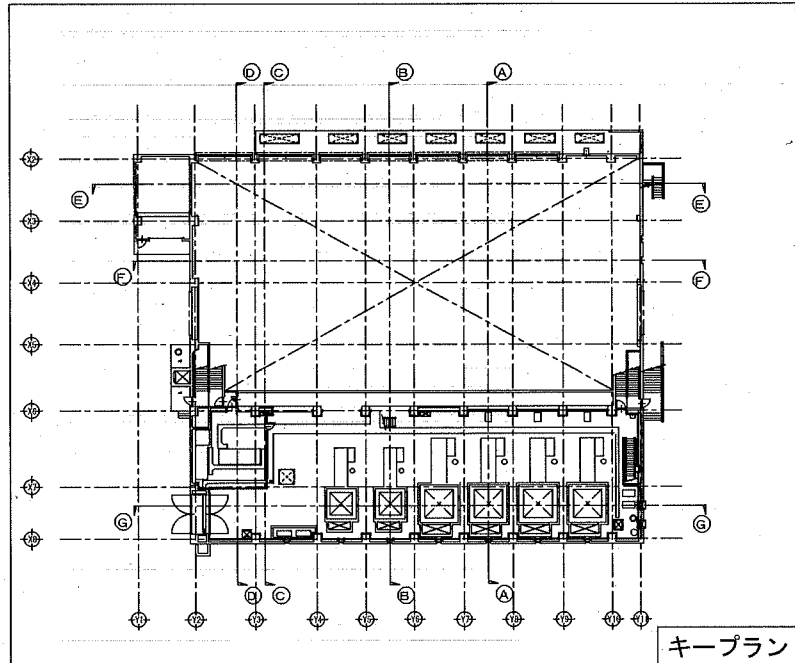
E-E断面図



G-G断面図



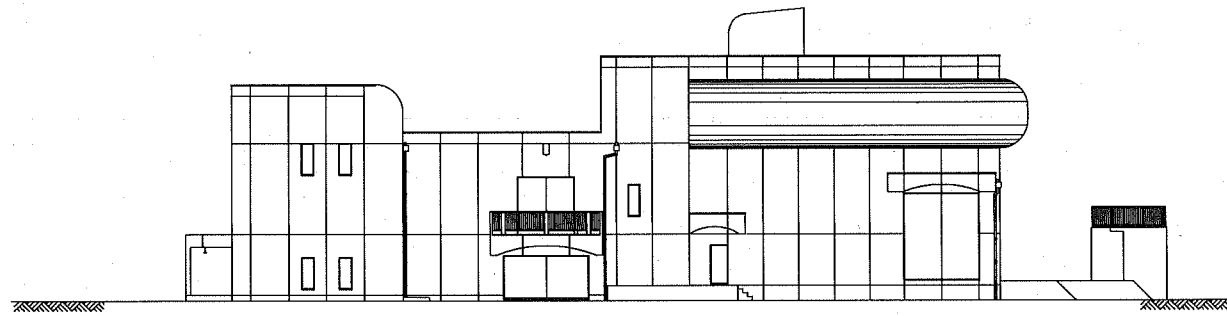
F-F断面図



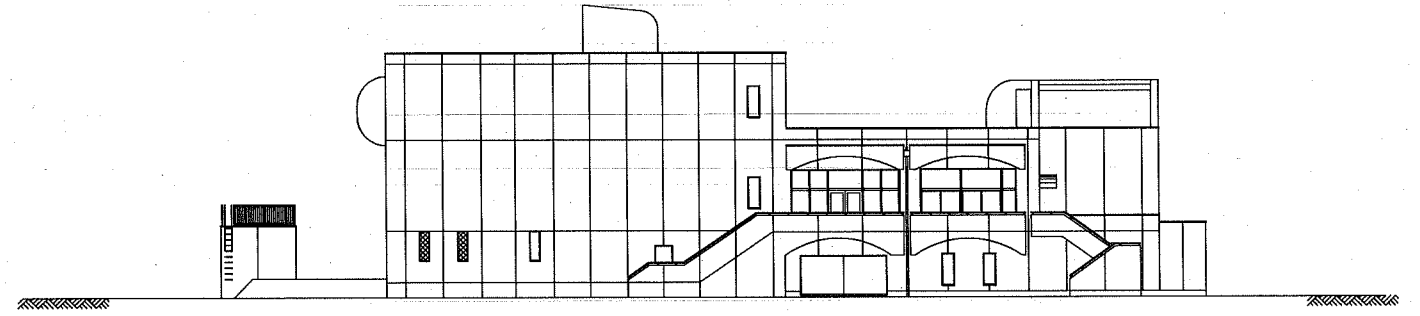
キープラン

凡例  
 〇 本工事範囲  
 階数(N-N) 部位番号

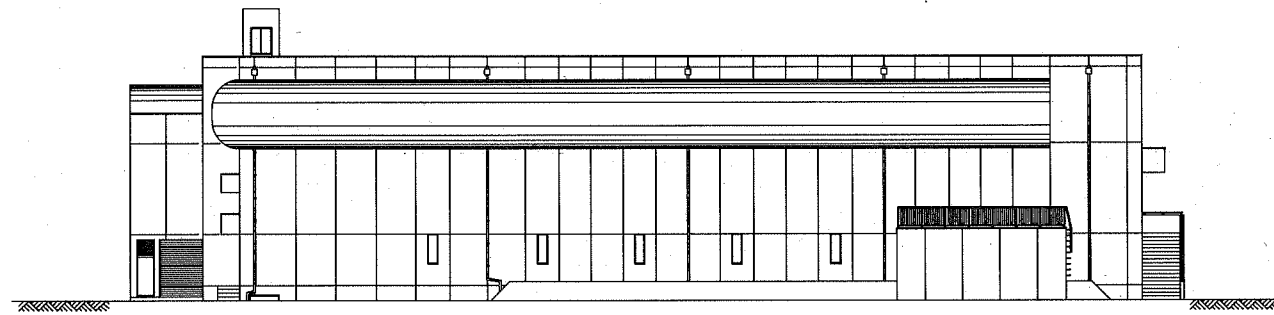
横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事	
図名	面	断面図(2)	
縮尺	1:200	図番	A-4
製年	作月	令和2年8月	
課長	係長	担当者	設計者



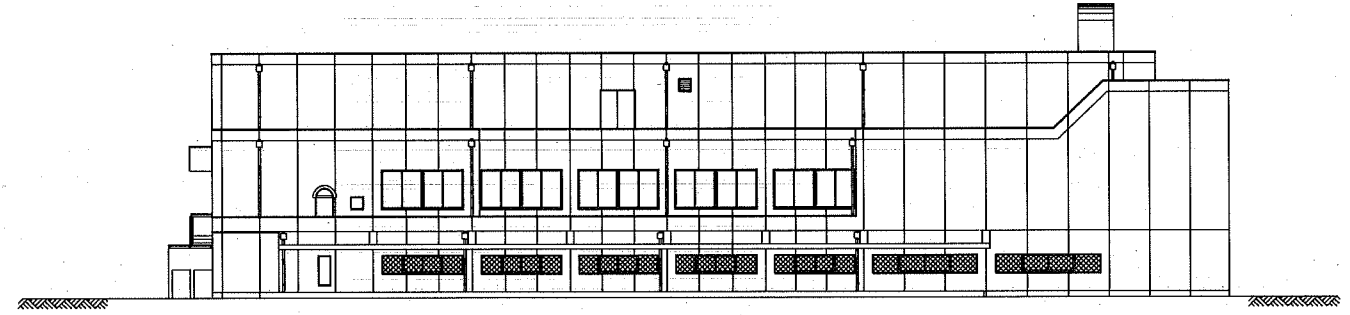
西側立面図



東側立面図



南側立面図



北側立面図

凡例

■ 本工事改修範囲を示す

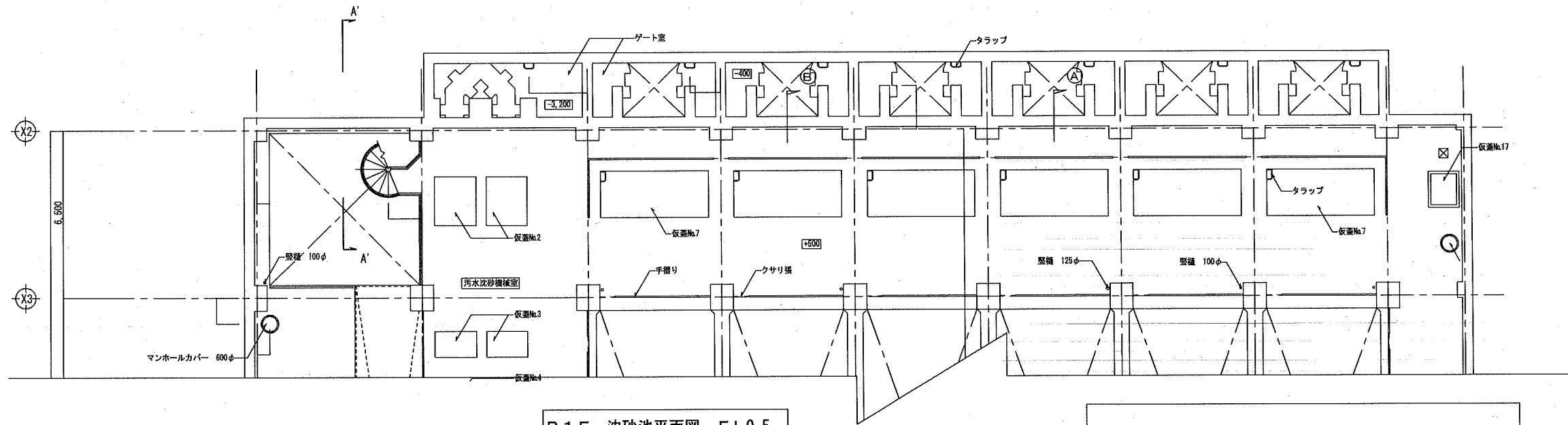
横須賀市上下水道局				
工名	事	舟倉第2ポンプ場		
図名	称	耐震補強建築工事		
縮尺	面	立面図		
製年	作	—	面	A-5
課長	係	長	担	計
			当	者
			者	
				者

共通事項		外部仕上げ		内部仕上げ		壁・柱																																																	
<p>1 各項目の※及び・の適用は特記仕様書と同じとする。</p> <p>2 (O—O—O) 内の数字は建築工事標準詳細図の詳細番号を示す。</p> <p>3 特記以外の建物内部の木部は、EP-0とする。ただし、和室まわりの木部は塗装なしとする。</p> <p>4 特記以外の鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面は、SOP塗りとする。ただし、建物内部はEP-0とする。</p> <p>5 備考欄の「測定対象室( )」は、特記仕様書の「室内空気中の化学物質の濃度測定」を行う対象室を示し、( ) 内数値は測定箇所数を示す。</p> <p>6 略号は下表による。</p>		<p>(1) 特記以外の下地及び詳細番号は下記による。</p> <table border="1"> <tr><th>仕上げ種別</th><th>既存詳細番号</th><th>改修後詳細番号</th></tr> <tr><td>コンクリート直均し仕上げ</td><td></td><td>1-01-3: t=10</td></tr> <tr><td>一般床タイル</td><td></td><td>1-01-5</td></tr> <tr><td>大形床タイル</td><td></td><td>1-01-6</td></tr> <tr><td>石材(石厚50mm以下)</td><td></td><td>1-01-9</td></tr> <tr><td>モルタル、防水モルタル</td><td></td><td>1-01-1</td></tr> <tr><td>珪藻土・注意喚起用床材</td><td></td><td>1-01-7</td></tr> </table> <p>(2) 改修後の異なる床仕上げの取合いでくつずり、目地棒がない場合は(4-31-3)による。</p>		仕上げ種別	既存詳細番号	改修後詳細番号	コンクリート直均し仕上げ		1-01-3: t=10	一般床タイル		1-01-5	大形床タイル		1-01-6	石材(石厚50mm以下)		1-01-9	モルタル、防水モルタル		1-01-1	珪藻土・注意喚起用床材		1-01-7	<p>(1) 特記以外の下地及び詳細番号は下記による。</p> <table border="1"> <tr><th>仕上げ種別</th><th>既存詳細番号</th><th>改修後詳細番号</th></tr> <tr><td>NC、CT、CTS、HT</td><td></td><td>1-01-4: t=10</td></tr> <tr><td>タイル</td><td></td><td>1-01-5、-6</td></tr> <tr><td>カーペット</td><td></td><td>1-02-4、-5</td></tr> <tr><td>畳</td><td></td><td>1-02-3</td></tr> <tr><td>天然水化複合フローリング</td><td></td><td>1-02-8</td></tr> <tr><td>コンクリート直均し仕上げ</td><td></td><td>1-01-3: t=10</td></tr> <tr><td>塗床、床用塗料、防塵用塗料</td><td></td><td>1-01-1</td></tr> <tr><td>モルタル、防水モルタル</td><td></td><td>1-01-1</td></tr> </table> <p>(2) 改修後の異なる床仕上げの取合いでくつずり、目地棒がない場合は(4-31-3)による。</p>		仕上げ種別	既存詳細番号	改修後詳細番号	NC、CT、CTS、HT		1-01-4: t=10	タイル		1-01-5、-6	カーペット		1-02-4、-5	畳		1-02-3	天然水化複合フローリング		1-02-8	コンクリート直均し仕上げ		1-01-3: t=10	塗床、床用塗料、防塵用塗料		1-01-1	モルタル、防水モルタル		1-01-1	<p>(3) 改修後のコンクリート打放しの出隅取りは10mmとする。(梁形共)</p> <p>(4) 改修後の下がり壁(3-12-1)・塩ビ製見切り縁・アルミ製見切り縁)の仕上げは壁と同じとする。ただし、下地張りはなしとする。</p> <p>(5) 改修後のボード壁とRC又はCB壁との取合いは(2-24-6: 継目処理の場合 塩ビ製見切り縁)とする。</p> <p>(6) 改修後のボード壁とサッシュ取合いは(2-24-7)とする。</p> <p>(7) 改修後の挿入(6-46-1)の壁はCB-R厚さ12.5mm塗膜なし突出付とする。</p> <p>(8) 改修後の内装タイルを、軽量鉄骨下地のボード面に接着張りを行う場合はボードは、(2-01-3)・(2-03-13)による。</p>	
仕上げ種別	既存詳細番号	改修後詳細番号																																																					
コンクリート直均し仕上げ		1-01-3: t=10																																																					
一般床タイル		1-01-5																																																					
大形床タイル		1-01-6																																																					
石材(石厚50mm以下)		1-01-9																																																					
モルタル、防水モルタル		1-01-1																																																					
珪藻土・注意喚起用床材		1-01-7																																																					
仕上げ種別	既存詳細番号	改修後詳細番号																																																					
NC、CT、CTS、HT		1-01-4: t=10																																																					
タイル		1-01-5、-6																																																					
カーペット		1-02-4、-5																																																					
畳		1-02-3																																																					
天然水化複合フローリング		1-02-8																																																					
コンクリート直均し仕上げ		1-01-3: t=10																																																					
塗床、床用塗料、防塵用塗料		1-01-1																																																					
モルタル、防水モルタル		1-01-1																																																					
略号		略号		略号		略号																																																	
RC( )		RC( )		RC( )		RC( )																																																	
CB		CB		CB		CB																																																	
NC		NC		NC		NC																																																	
CT		CT		CT		CT																																																	
CTS		CTS		CTS		CTS																																																	
HT		HT		HT		HT																																																	
VT(E)		VT(E)		VT(E)		VT(E)																																																	
VB		VB		VB		VB																																																	
WB		WB		WB		WB																																																	
GB-R		GB-R		GB-R		GB-R																																																	
GB-L		GB-L		GB-L		GB-L																																																	
GB-NC		GB-NC		GB-NC		GB-NC																																																	
GB-NC(T)		GB-NC(T)		GB-NC(T)		GB-NC(T)																																																	
GB-D		GB-D		GB-D		GB-D																																																	
GB-S		GB-S		GB-S		GB-S																																																	
GB-F		GB-F		GB-F		GB-F																																																	
ケイカル板		ケイカル板		ケイカル板		ケイカル板																																																	
ケイカル板(P)		ケイカル板(P)		ケイカル板(P)		ケイカル板(P)																																																	
DR		DR		DR		DR																																																	
DR(凹凸)		DR(凹凸)		DR(凹凸)		DR(凹凸)																																																	
DR(軒天)		DR(軒天)		DR(軒天)		DR(軒天)																																																	
DR(軒天凹凸)		DR(軒天凹凸)		DR(軒天凹凸)		DR(軒天凹凸)																																																	
RW-B		RW-B		RW-B		RW-B																																																	
GW-B		GW-B		GW-B		GW-B																																																	
MDF		MDF		MDF		MDF																																																	
HB		HB		HB		HB																																																	
IB		IB		IB		IB																																																	
PF板		PF板		PF板		PF板																																																	
R		R		R		R																																																	
G		G		G		G																																																	

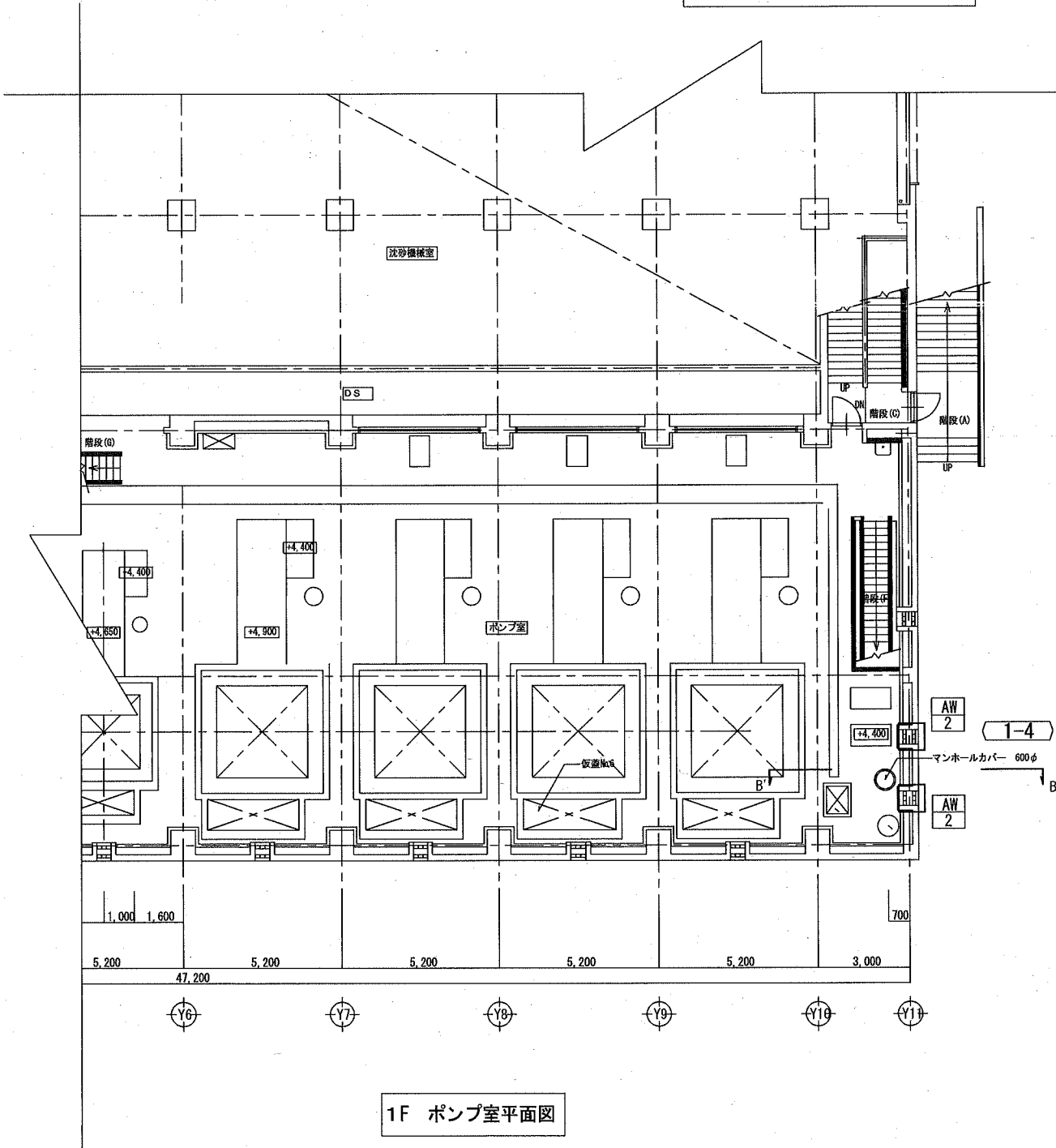
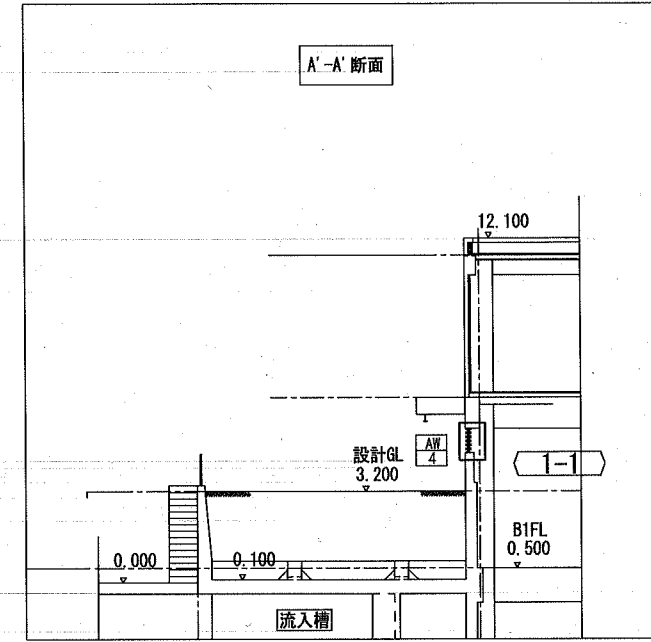
既存外部仕上げ				改修後外部仕上げ			
床				壁・柱			
ポーチ(1)	ポーチ(2)	ポーチ(3)	ポーチ(4)	外壁	コンクリート打放の上 収付タイル	目地切 W=30、D=20	(立面図参照)
ゲート開口台	汚水マンホール(屋根部)	ケーブルマンホール(屋根部)	コンクリートコテ仕上げ	コンクリート打放の上 収付タイル	目地切 W=30、D=20	(立面図参照)	

既存内部仕上げ														改修後内部仕上げ																			
階	室名	床	改修内容	幅木(隠)	改修内容	壁	改修内容	天井	改修内容	柱型	改修内容	梁型	改修内容	備考	階	室名	床	改修内容	幅木(隠)	改修内容	壁	改修内容	天井	改修内容	柱型	改修内容	梁型	改修内容	備考				
B1	雨水沈砂機械室	コンクリートにて仕上げ	(沈砂池側へ水勾配をつける)			コンクリート打放し		セメントフィラー		コンクリート打放し		コンクリート打放し			B1	雨水沈砂機械室	コンクリートにて仕上げ	(沈砂池側へ水勾配をつける)			コンクリート打放し		既存のまま		コンクリート打放し		コンクリート打放し						
B1	配管室	防水モルタル塗 t 30	コンクリートにて仕上げ(側上)			防水モルタル t 20 H=150		コンクリート打放し		セメントフィラー		コンクリート打放し			B1	配管室	防水モルタル塗 t 30	コンクリートにて仕上げ(側上)			防水モルタル t 20 H=150		コンクリート打放し		既存のまま		コンクリート打放し		コンクリート打放し				
1下	ポンプ室	着色モルタル塗 t 30				モルタル塗 t 20 H=300		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)			1下	ポンプ室	着色モルタル塗 t 30				モルタル塗 t 20 H=300		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)				
1下	前室	着色モルタル塗 t 30	コンクリートコテ仕上げ(屋根部分)			モルタル塗 t 20 H=300		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		コンクリート打放し			1下	前室	着色モルタル塗 t 30	コンクリートコテ仕上げ(屋根部分)			モルタル塗 t 20 H=300		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		コンクリート打放し				
1下	沈砂し査搬出室	防水モルタル塗 t 30				防水モルタル t 20 H=150		コンクリート打放し		コンクリート打放し		コンクリート打放し			1下	沈砂し査搬出室	防水モルタル塗 t 30				防水モルタル t 20 H=150		コンクリート打放し		既存のまま		コンクリート打放し		コンクリート打放し				
1上	脱臭機室	防水モルタル塗 t 30	防水立上り			防水モルタル t 20 H=300		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		コンクリート打放し			1上	脱臭機室	防水モルタル塗 t 30	防水立上り			防水モルタル t 20 H=300		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		
1上	湯沸室	ビニール床タイル貼				ビニール巾木 H=100		モルタル塗 t 20 EP(A)		石綿板(F) t 5 EP(A)				1上	湯沸室	ビニール床タイル貼					ビニール巾木 H=100		モルタル塗 t 20 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		石綿板(F) t 5 EP(A)						
1上	廊下	ビニール床タイル貼				ビニール巾木 H=100		モルタル塗 t 20 EP(A)		ロックウール吸音板 t 12				1上	廊下	ビニール床タイル貼					ビニール巾木 H=100		モルタル塗 t 20 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		石綿板(F) t 5 EP(A)						
1上	ホッパー室	コンクリートにて仕上げ				コンクリート打放し		FP板 t 25打込		コンクリート打放し		コンクリート打放し			1上	ホッパー室	コンクリートにて仕上げ				コンクリート打放し		既存のまま		コンクリート打放し		コンクリート打放し		コンクリート打放し				
共通	階段(C)(D)	踏面、蹴込、踊場	着色モルタル t 30			モルタル塗 t 20 VP H=100		モルタル塗 t 20 EP(A)		石綿板(F) t 5 EP(A)		セメントフィラー			共通	階段(C)(D)	踏面、蹴込、踊場	着色モルタル t 30			モルタル塗 t 20 VP H=100		モルタル塗 t 20 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		石綿板(F) t 5 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		有孔石綿板貼 t 6 EP(A)		
共通	煙道	耐火コクリート打	t=250以内			耐火コクリート打	t=250以内	耐火コクリート打	t=250以内	耐火コクリート打	t=250以内	耐火コクリート打	t=250以内		共通	煙道	耐火コクリート打	t=250以内			耐火コクリート打	t=250以内	耐火コクリート打	t=250以内	耐火コクリート打	t=250以内	耐火コクリート打	t=250以内	耐火コクリート打	t=250以内	耐火コクリート打	t=250以内	

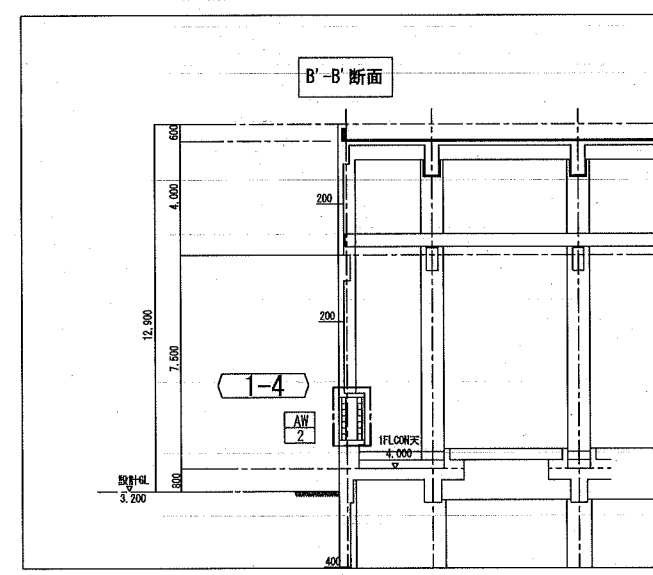
<p>改修内容凡例</p> <p>A: 仕上げ撤去 a: 仕上げ新設</p> <p>B: 箇所の仕上げ撤去 b: 箇所の仕上げ新設</p> <p>C: 下地共撤去 c: 下地共新設</p> <p>D: 箇所の下地共撤去 d: 箇所の下地共新設</p> <p>E: 下地の調整 e: 塗装の塗替え</p> <p>F: 既存のまま f: 既存のまま</p>												<p>共通事項</p> <p>1. 間仕切りの撤去・新設等の位置は、平面図による。</p>											
<p>横須賀市上下水道局</p> <p>舟倉第2ポンプ場</p> <p>耐震補強建築工事</p> <p>仕上表</p> <p>縮尺 1/100 図面番号 A-6</p> <p>製作月 令和2年8月</p> <p>課長 係長 担当者 設計者</p>																							



B1F 沈砂池平面図 F.L.0.5



1F ポンプ室平面図

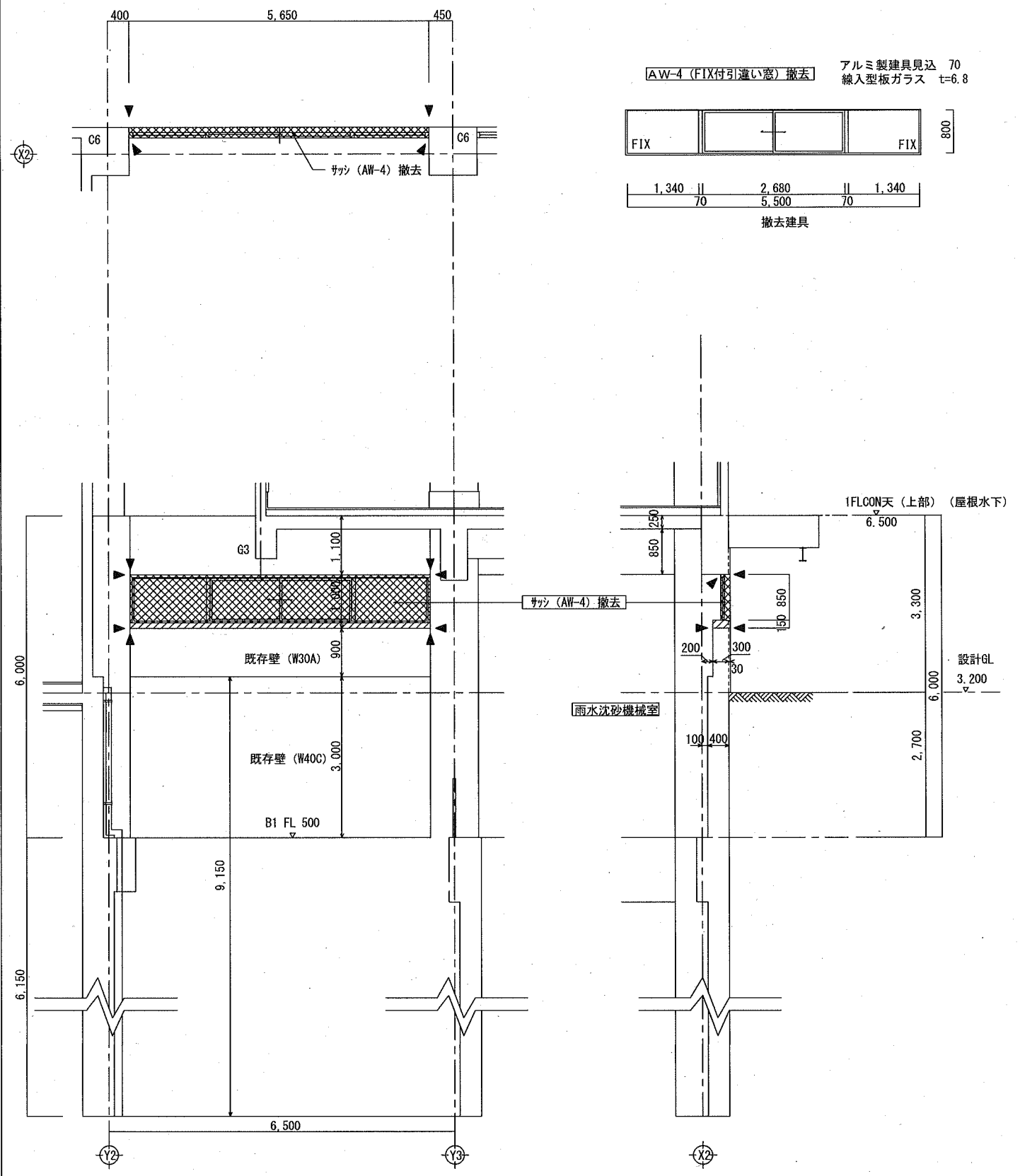


凡例

- 補強工事範囲
- 撤去建具記号
- 階数 N-N 部位番号

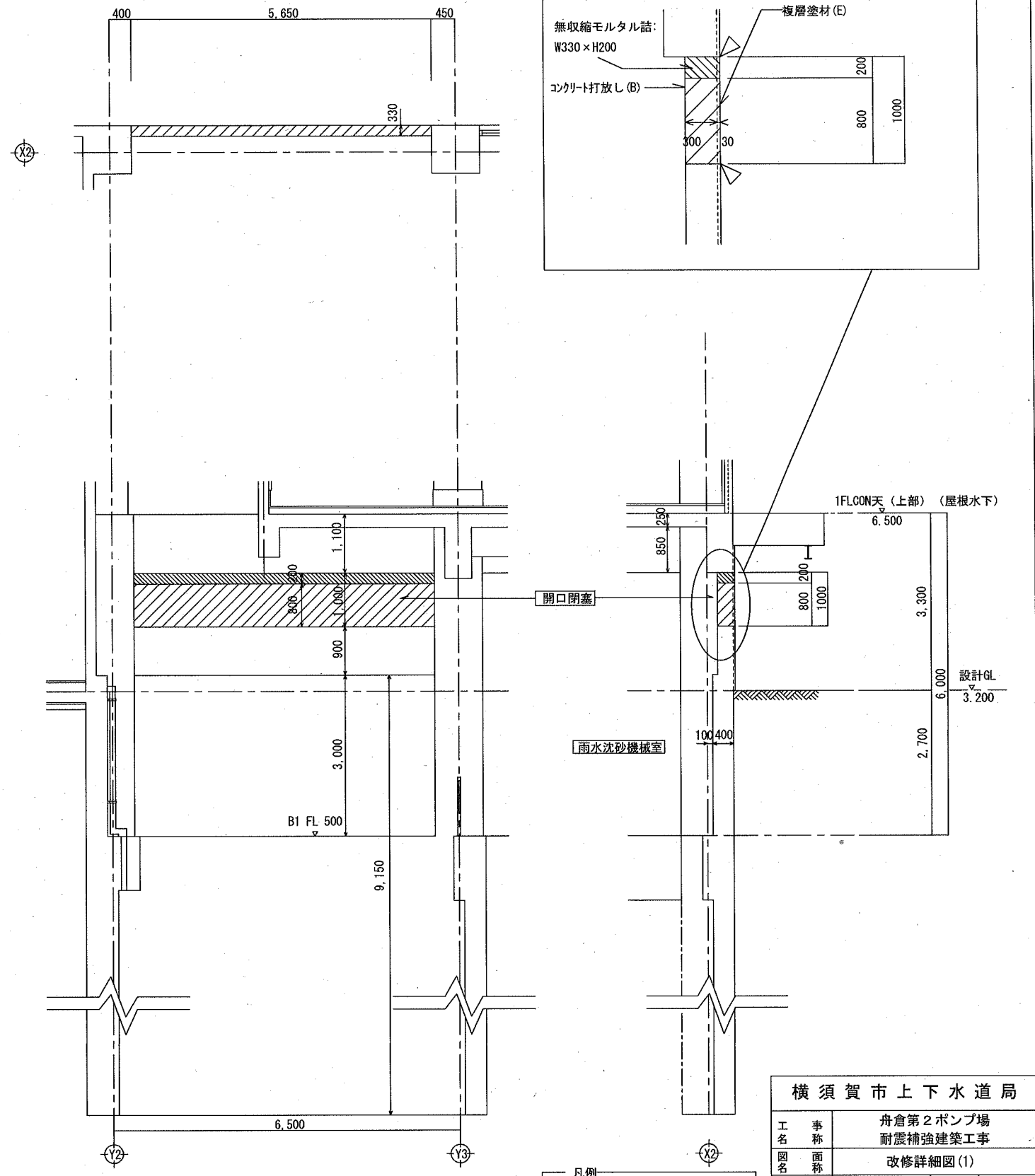
横須賀市上下水道局				
工名	事	舟倉第2ポンプ場		
図名	面	耐震補強建築工事		
縮尺	1:100	図番	A-7	
製年	作月	令和2年8月		
課長	係長	担当者	設計者	





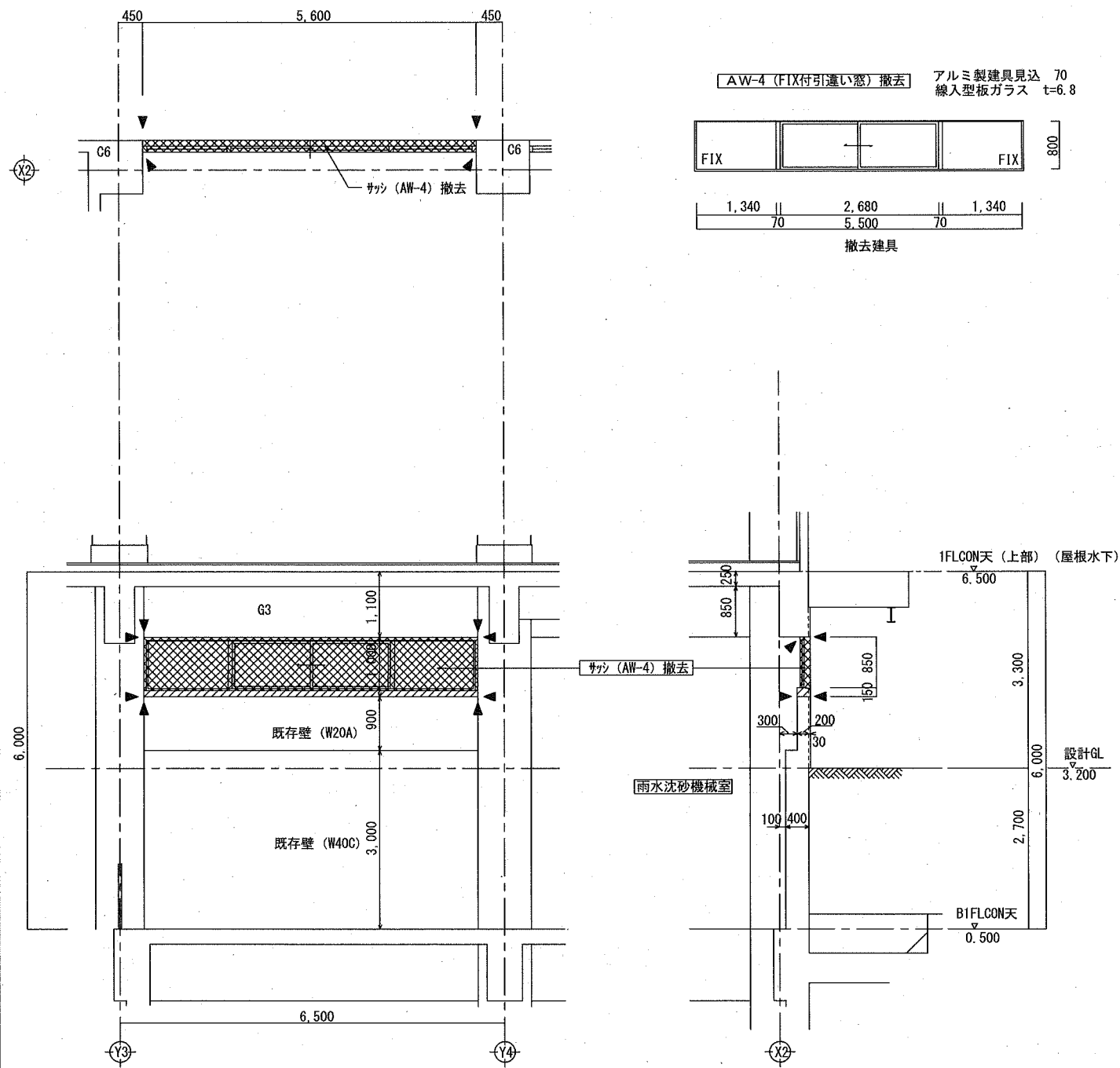
※ 既存壁の内壁仕上は「コンクリート打放」

- 凡例
- ▼ : カッター入位置を示す
  - ▨ : 建具撤去
  - ▩ : コンクリート撤去



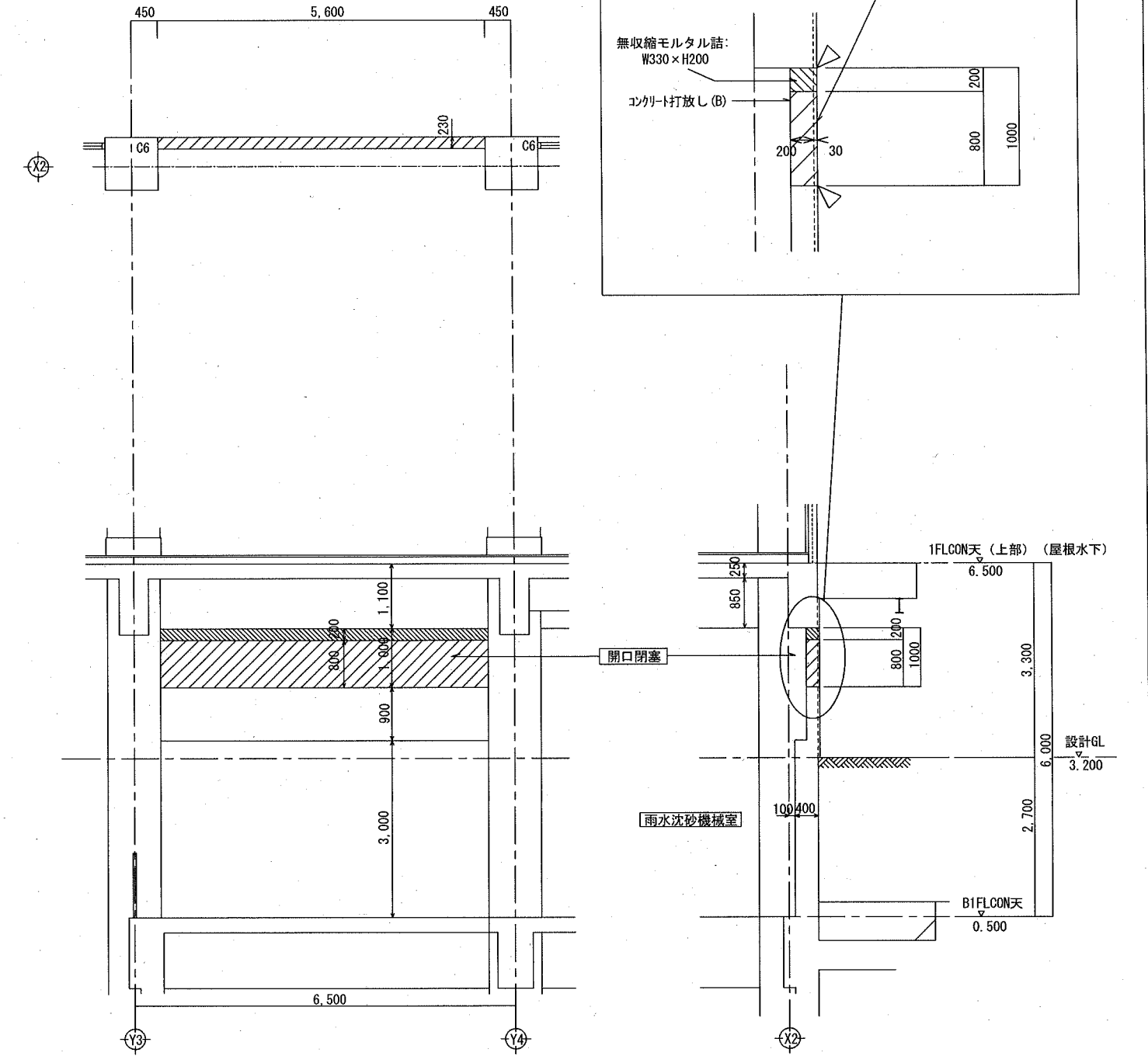
- 凡例
- ▨ : 増設壁 (コンクリート打放)
  - ▽ : 目地切 10×10 シーリング (PU-2)
  - ▩ : 無収縮モルタル

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 面 名 称	改修詳細図 (1)		
縮 尺	1:50	図 面 番 号	A-8
製 年 月	令和 2 年 8 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者



※ 既存壁の内壁仕上は「コンクリート打放」

- 凡例
- ▼ : カッター入位置を示す
  - ▨ : 建具撤去
  - ▧ : コンクリート撤去



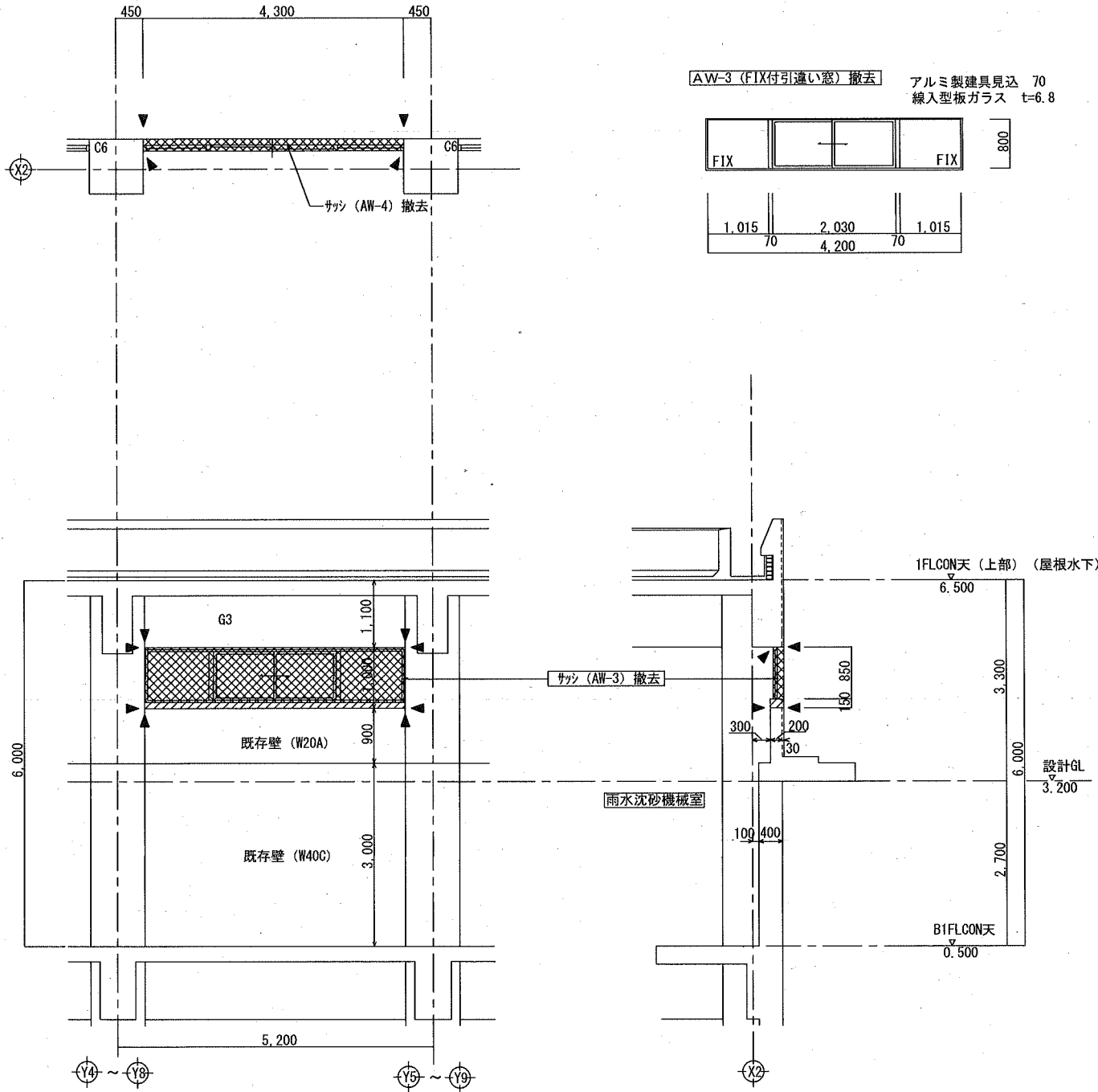
- 凡例
- ▨ : 増設壁 (コンクリート打放)
  - ▽ : 目地切 10 x 10 シーリング (PU-2)
  - ▧ : 無収縮モルタル

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 名	改修詳細図 (2)		
縮 尺	1:50	図 番 号	A-9
製 年 月	令和 2 年 8 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

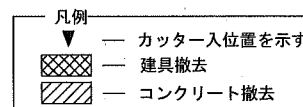
1-3 1階下部 X2通り Y4-Y5間  
Y5-Y6間  
Y6-Y7間  
Y7-Y8間  
Y8-Y9間

W20

5



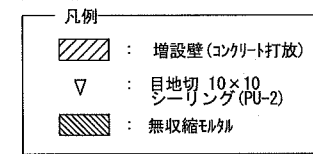
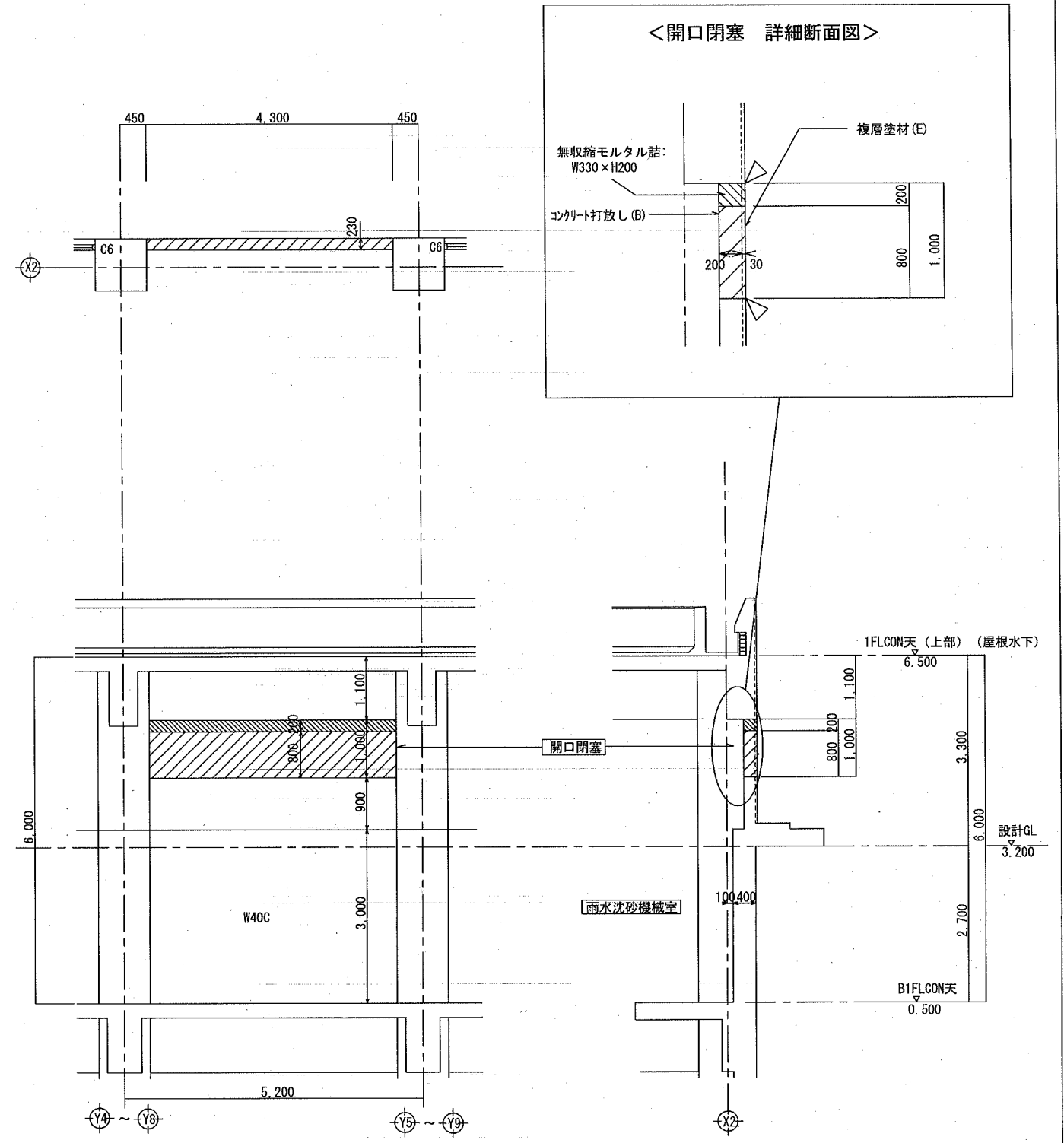
※ 既存壁の内壁仕上は「コンクリート打放」



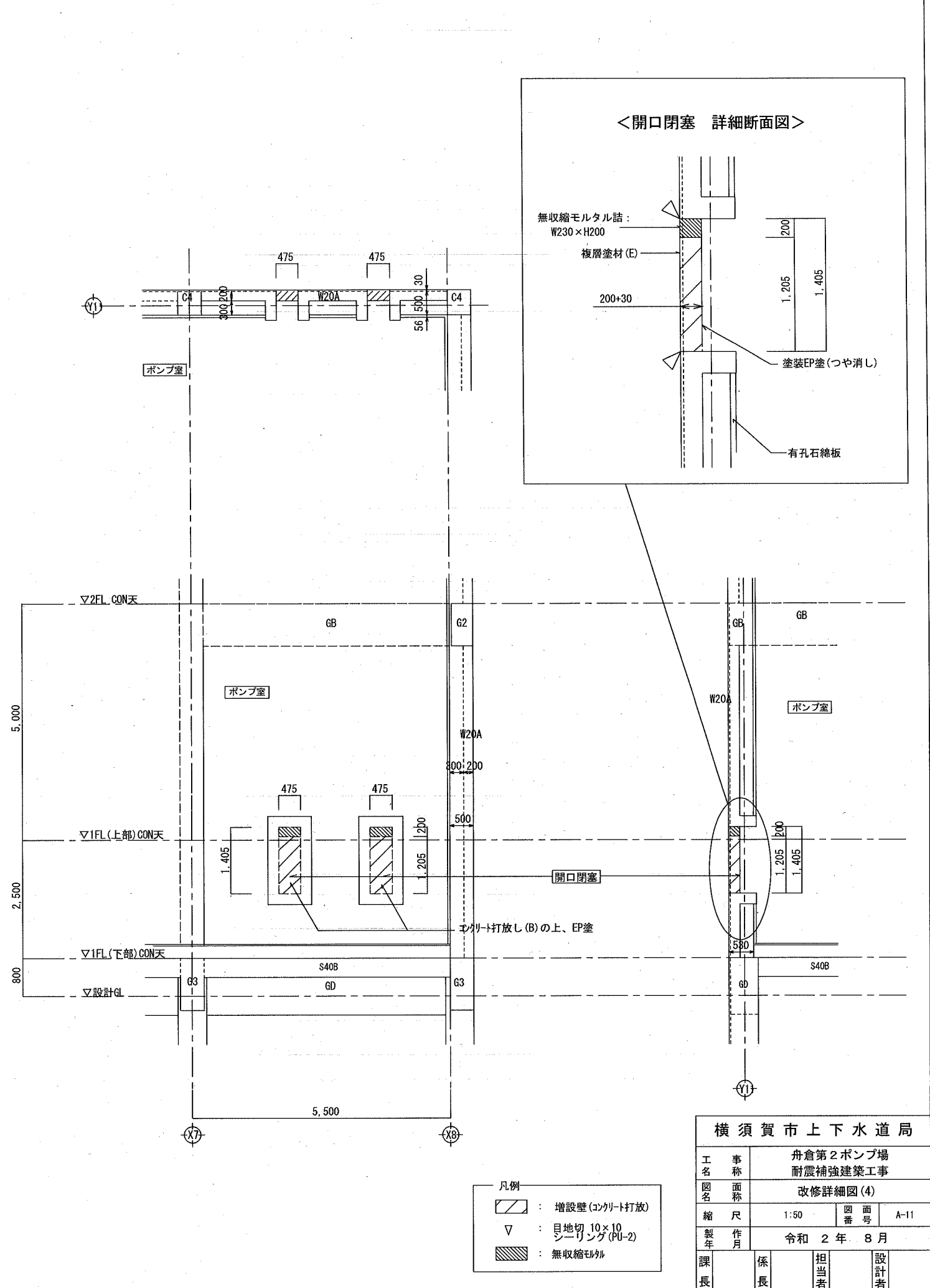
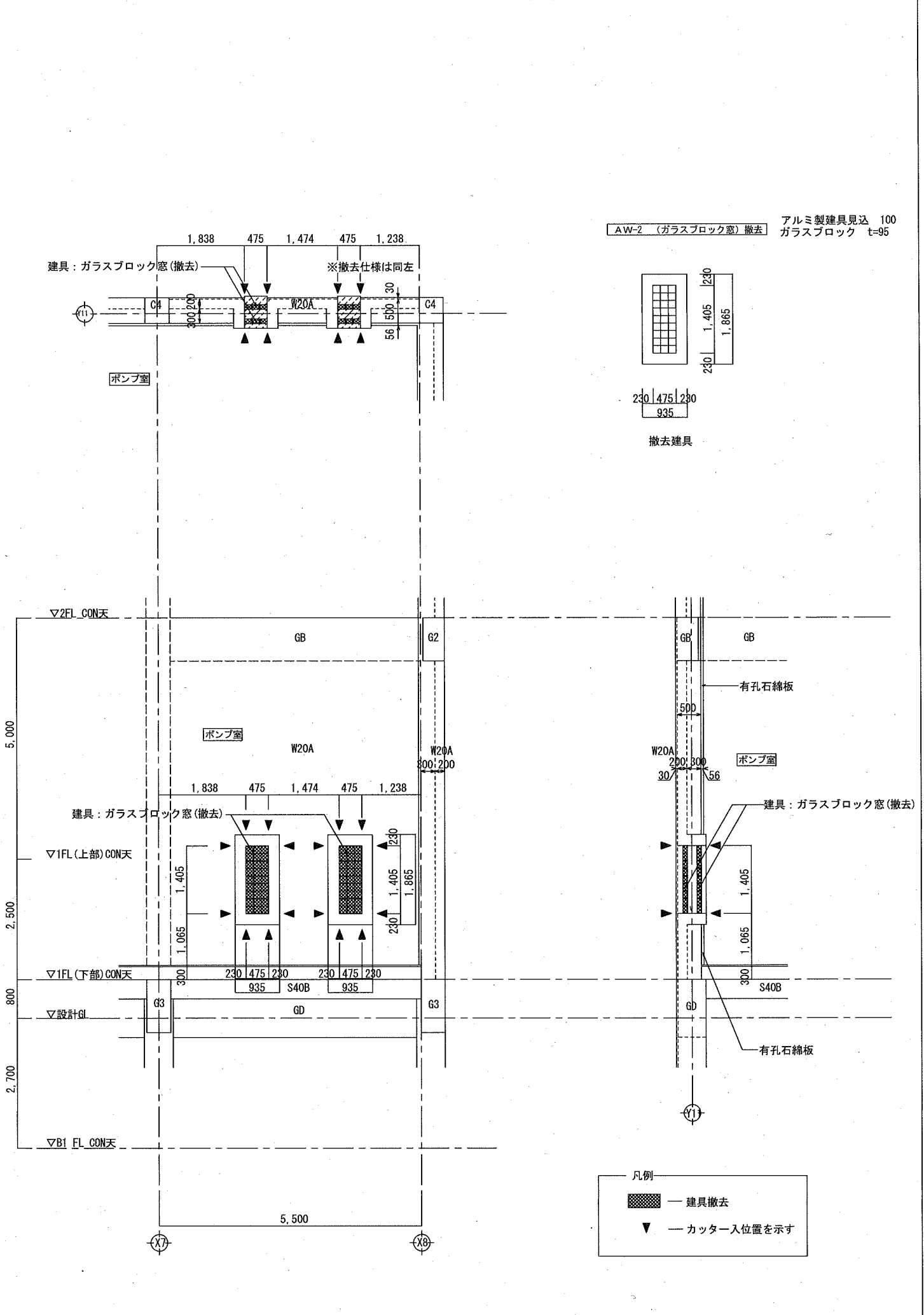
1-3 1階下部 X2通り Y4-Y5間  
Y5-Y6間  
Y6-Y7間  
Y7-Y8間  
Y8-Y9間

HW20B

5



横須賀市上下水道局			
工事名	舟倉第2ポンプ場耐震補強建築工事		
図名	改修詳細面 (3)		
縮尺	1:50	図番	A-10
製年	令和 2 年 8 月		
課長	係長	担当者	設計者



横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 面 名 称	改修詳細図(4)		
縮 尺	1:50	図 面 番 号	A-11
製 作 年 月	令和 2 年 8 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

# 構造細目共通図(複合構造物)

## 1 特記事項

### 1.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。
- (2) 土木工事と建築工事の区分は図面による。
- (3) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

土木工事	1) コンクリート標準示方書・施工編 土木学会 (2012年版)	2) コンクリート標準示方書・設計編 土木学会 (2012年版)
建築工事	1) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁 (平成31年版)	

- (4) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。◎印と⊙印のある場合は、共に適用する。

## 1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は1.2.1表による。

1.2.1表 鉄筋の種類及び継手

鉄筋の種類	種別	径	
		土木	建築
鉄筋の種類	SD295A	—	※D16以下
	※SD345 ・SD390 ・SD490	※D13以上	—
	SD345	—	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外	
	ガス圧接	※D19以上の柱、梁主筋 ※D16以上の増設床の床、壁鉄筋	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	・図面による。	

## 1.3 コンクリートの仕様

コンクリートは1.3.1表による。

1.3.1表 コンクリートの仕様

分類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランブ(cm)	セメントの種類	
				土木	建築
土木	鉄筋コンクリート	※普通コンクリート ・30	※12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント	
建築	鉄筋コンクリート	地上	※24 ◎21	※18	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
		地下基礎、基礎梁	※24	※15	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
土木	無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント
建築	無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB

注1：無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

## 1.4 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは1.4.1表による。

1.4.1表 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの仕様

部位	種別	厚さ(mm)
土木工事	砂利または砕石	※200
	均しコンクリート	※100
建築工事	砂利または砕石	※60
	捨てコンクリート	※50

## 2 共通事項

### 2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1.1表及び2.1.2表を標準とする。

2.1.1表 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	○	●	○	◎	⊙	⊗	◎
土木									

●又は建築による。

2.1.2表 一般凡例

記号・番号	内容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中梁はFとする ※2 その階の番号 X方向A, 2, 3--- Y方向A, B, C---
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 B:耐震壁、K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚(cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)
////	打ち増し範囲	
////	梁・床版の上り下がり	一般には基準FLよりの+、-に 応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m <sup>2</sup> )
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立筋	床版、底版

### 2.2 一般注意事項

- (1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。
- (2) 配筋等に関しては、施工図を作成し監督職員の確認を得ること。

## 3 土木工事

### 3.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3.1.1表及び3.1.2表を標準とする。

- (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
- (2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1.1表 鉄筋曲げ加工(1)

位置	曲げ角度	折曲げ図及び折曲げ後の余長	曲げ内法直径	使用箇所
末端部	180°	4d以上かつ60mm以上	5d以上	定着末端部
	135°	6d以上かつ60mm以上	5d以上	スターラップ、帯鉄筋、フープ筋等
	90°	4d以上かつ60mm以上	5d以上	梁、壁、床版、底版
中間部	90°	100mm	5d以上	幅止め鉄筋
	θ<90°	直交方向に90°	10d以上	折曲げ鉄筋

3.1.2表 鉄筋曲げ加工(2)

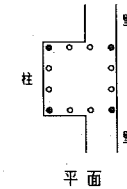
位置	曲げ角度	折曲げ図	曲げ内法直径	使用箇所
最上階	90°	D	20d以上	ラーメン隅角部
一般階	90°	D	5d以上	

### 3.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、3.2.1表によりフックを設ける。

3.2.1表 フックを設ける位置

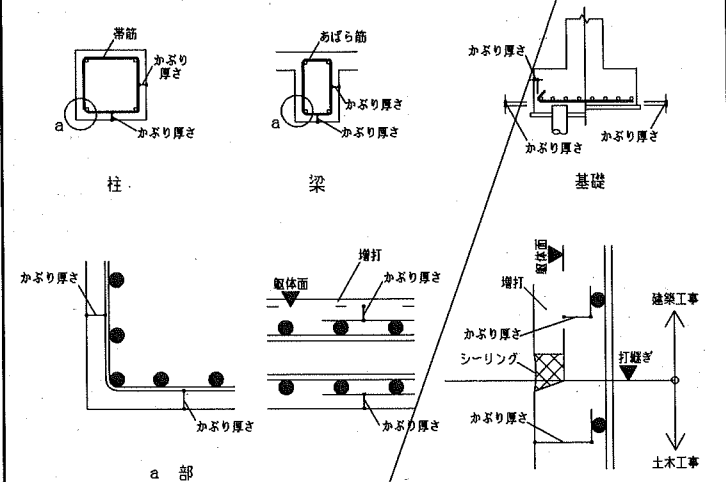
部位	継手方式		備考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	1) 最上階の柱頭	3.2.1 図の●印 3.8.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	3.2.1 図の●印 3.8.2 図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	3.9.1 図参照
梁	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	3.12.1 図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底版筋	1) 末端部 2) 継手部	3.25.1 図参照
煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる場合を含む
	幅止め筋	-	3.1.1 表参照



3.2.1 図 異形鉄筋の末端部

### 3.3 鉄筋のかぶり及び間隔

- 3.3.1 かぶり厚さ  
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋を除く)の外側から躯体面までの距離(3.3.1 図)をいう。鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



3.3.1 図 鉄筋のかぶり厚さ

### 3.3.2 最小かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、3.3.1表による。床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

3.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

※ 通常の施工の場合

環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
大気中		50	50	-
水中・土中等		50	70	70

・ 塩害対策地域の施工の場合

対策区分	環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
I	大気中		70	70	-
	水中・土中等		70	70	70
II, III	大気中		50	70	-
	水中・土中等		50	70	70

- 1: 部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
- 2: 杭基礎の底版・フーチング下層筋のかぶり厚さは、7. 杭基礎の補強を参照する。

(注) 梁: 大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

## 横須賀市上下水道局

工名	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図名	構造細目共通図(1)		
縮尺	-	図番号	S-1
製作月	令和2年8月		
課長	係長	担当者	設計者

4 建築工事

4.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、4.1.1表及び4.1.2表を標準とする。

- (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
- (2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

4.1.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)

曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		使用箇所
		SD295A, SD345 D16以下	D19~D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	90°・135° 幅止め筋

- (注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。  
2. 90°未満の折曲げの内法直径は図示による。

4.1.2表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(中間部)

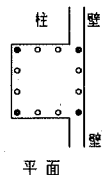
曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		D16以下	D19~D25	D29~D38	
90°以下		3d以上	4d以上	-	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
		4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

4.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、4.2.1表によりフックを設ける。

4.2.1表 フックを設ける位置

部位	異形鉄筋	継手方式		備考
		重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	—	1) 最上層の柱頭部	4.2.1 図の●印 4.7.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	—	1) 下階の柱主筋を引き通すができない柱頭部	4.2.1 図の●印 4.7.2 図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	4.8.1 図参照
梁	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	4.11.1
	煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる場合を含む 図参照
	幅止め筋	—	—	4.1.1 表参照

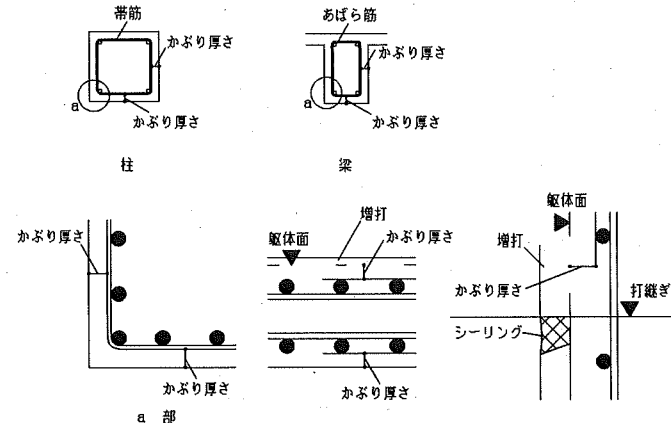


4.2.1図 異形鉄筋の末端部

4.3 鉄筋のかぶり及び間隔

4.3.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外側から躯体面までの距離(4.3.1図)をいう。  
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



4.3.1図 鉄筋のかぶり厚さ

4.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4.3.1表による。

- (1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
- (2) 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。
- (3) 溶接金網にも適用する。

4.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

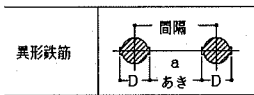
構造部分の種類	埋置区分		
	* 通常の施工の場合	◎ 埋置対策を必要とする場合	
一般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等熱を受ける部分		60	70

- 1: 打継目部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。  
2: 仕上なしの場合を標準とする。

4.4 鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手のあきは、図面による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 最小のあき25mm
- (3) 異形鉄筋の直径(呼び径)の1.5倍以上



(注) D: 鉄筋の最大径 d: 鉄筋直径(呼び名)

4.4.1図 鉄筋のあき

4.4.1表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)	鉄筋相互のあき: a			最小鉄筋間隔 a+D
	(1) 最大径 D	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
D10	11	31mm 粗骨材最大径の場合 25mmの場合	15mm	42mm
D13	14		20mm	45mm
D16	18		24mm	49mm
D19	21		29mm	52mm
D22	25		33mm	58mm
D25	28		38mm	66mm
D29	33		44mm	77mm

4.5 鉄筋の継手及び定着

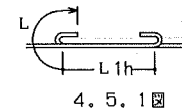
4.5.1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手及び定着の長さは、4.5.1表による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

4.5.1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	L1 (フックなし)		L1h (フックあり)	
		L1	L1h	L1h	L1h
SD295A	21	40d	30d	30d	25d
	24 27	35d	25d	35d	25d
SD345	21	45d	30d	30d	25d
	24 27	40d	30d	40d	30d
	30	35d	25d	35d	25d

- (注) 1. L1, L1h: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ  
2. フックありの場合のL1hは、4.5.1図に示すようにフック部分Lを含まない。



4.5.1図

4.5.2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。
- (2) 異径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

4.5.3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、4.5.2表による。

4.5.2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h	L1h	L2h
SD295A	21	40d	35d	L3 小梁 スラブ 10d かつ 150mm以上	30d	25d	10d	30d	25d
	24, 27	35d	30d		25d	20d		30d	25d
	30	35d	30d		25d	20d		30d	25d
SD345	21	45d	35d	10d	30d	25d	10d	30d	25d
	24, 27	40d	35d		25d	20d		30d	25d
	30	35d	30d	25d	20d	30d	25d	20d	

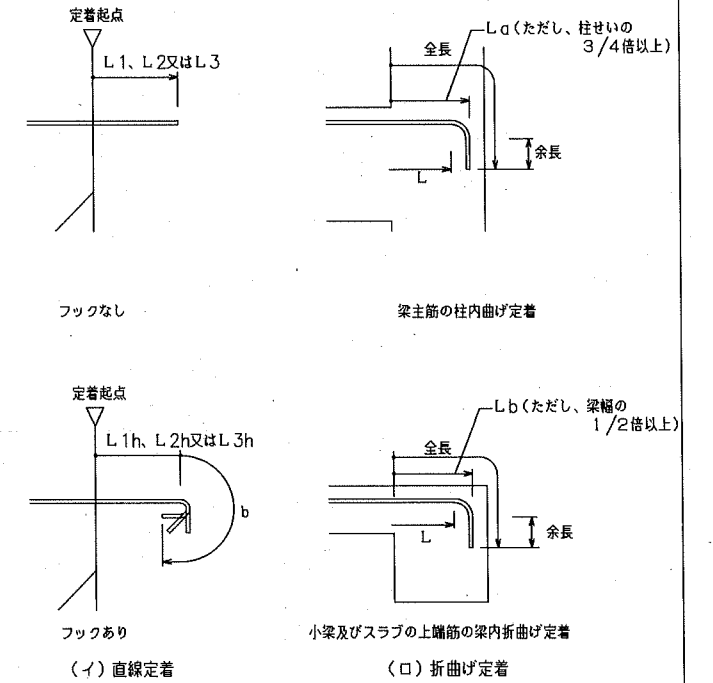
- (注) 1. L1, L1h: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ  
2. L2, L2h: 割裂破壊の恐れのない箇所への直接定着の長さ及びフックありの定着の長さ  
3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。)なお、片持ち小梁及び片持ちスラブの場合は20d及び10dを25d以上とする。  
4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ  
5. フックありの定着の場合は、4.5.2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。また中間部での折曲げは行わない。

4.5.4 定着の方法

定着の方法は4.5.2図による。  
なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、4.5.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を4.5.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを4.5.3表に示す長さをのみ込ませる。

- (注) 1. La, Lbは、4.5.3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記の条件を満たすものとする。

- ・梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上
- ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
- ・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



4.5.2図 定着の方法

4.5.3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	La	Lb
SD295A	24 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ちスラブを含む。)  
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 面 名 称	構造細目共通図(2)		
縮 尺	—	図 面 番 号	S-2
製 作 年 月	令和 2 年 8 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

# あと施工アンカー(接着系)

## 一般仕様

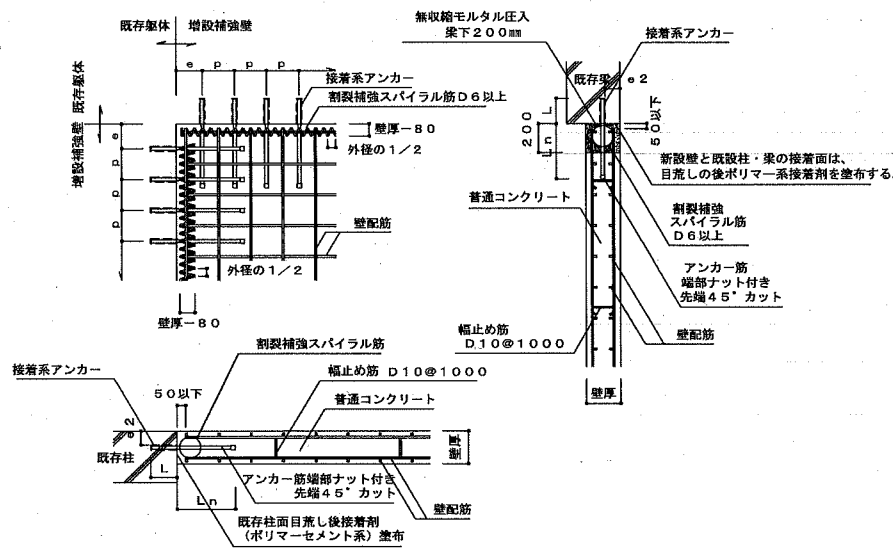
1. 使用鉄筋  
異形棒鋼とし、SD295A(D10~D16)、SD345(D19~ )とする。
2. 使用コンクリート設計基準強度  
 $F_c = 21 \text{ N/mm}^2$  以上 (普通コンクリート) スラブ厚18cm
3. モルタル設計基準強度 (無収縮)  
 $F_m = 30 \text{ N/mm}^2$  以上
4. あと施工アンカー  
本体：接着系アンカーとする。  
接着剤：樹脂カプセル型ポリエステル系、エポキシアクリレート系とする。  
接合部：異形棒鋼とし、鉄筋の接合は機械式継手とする。

5. 注意事項
  - 1) 増設部材と既存コンクリート躯体との接合面については  
既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート打設前に  
充分な水湿しを行う。
  - 2) コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、又はタキキ  
より密実なコンクリートとなるように充分な施工計画を立てる。
  - 3) 増打ちコンクリートは無収縮コンクリートとして計画施工する。
  - 4) 増打ちコンクリートはスラブ下20cmまで打設し壁頂部は無収縮  
モルタル圧入とする。
  - 5) コンクリートの強度発現期間中は充分な湿潤状態で養生する。  
また養生期間中は振動等を与えないように注意する。

- 6) 接着系アンカーの施工
  - a) 穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋検査器等により確認し、既存  
部の損傷を極力避ける。
  - b) 施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋  
込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
  - c) アンカーの削孔時に既存鉄筋に当たった場合は、受材の取り付  
けに有効で、かつ、耐力上支障のない部分に削孔位置を変更する。
  - d) c) で使用しない孔は、セメントモルタル等を充填する。
  - e) 現場施工されたあと施工アンカーは、全数の打音調査により、  
その固着度を確認し監督職員に報告書を提出し承諾を受ける。
  - f) 引き抜き耐力の確認試験は、機械的簡易引張試験機による引張  
試験とする。
    - 1) 試験箇所数は、同一施工条件のあと施工アンカーを1ロットと  
し、1ロットの施工箇所数の5%、かつ、3本以上とする。
    - 2) 引張試験の試験荷重は、下表の数値を試験荷重とし、過大な変位を起こさず  
耐えられるものを合格とし、すべての試験箇所が合格すれば、  
そのロットを合格とする。
    - 3) 以上の試験において、一箇所でも不合格のものがあつた場合に  
は、さらに、そのロット全数の20%を抜き取り、試験箇所  
の全数が合格すれば、ロットを合格とし、1箇所でも不合格の  
ものがあつた場合には、全数について1)の引張試験を行う。
    - 4) 不合格となったものは、切断等の処置を行いa)~d)により、  
新たに施工し、更に2)による引張り試験を行う。
  - g) あと施工アンカーの埋込み長さは、図示による。

アンカー呼び名 (da)	荷重 (kN)	
	埋込み長: 8da	埋込み長: 11da
D13	21	25
D16	32	40
D19	45	66
D22	60	90
D25	78	117

## 新設壁の標準配筋要領図



アンカー筋	Ln (20da)	L (8da)
D13	260mm	104mm以上
D16	320mm	128mm以上
D19	380mm	152mm以上
D22	440mm	176mm以上
D25	500mm	200mm以上

※但し、梁側及び開口補強の場合はL=11daを原則とする。

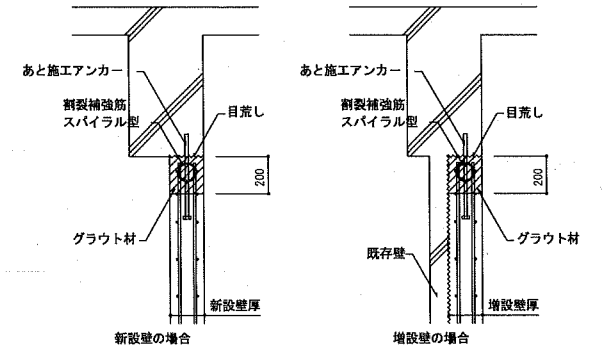
アンカー筋	P	e
D13	100mm以上	65mm以上
D16	120mm以上	80mm以上
D19	145mm以上	95mm以上
D22	165mm以上	110mm以上
D25	190mm以上	125mm以上

※但し、Pの最大は300mmとする。  
へりあきe: 2.5da以上かつ帯筋、あばら筋の内側に配置 注1) da: アンカー筋径

アンカー呼び名 (da)	荷重 (kN)	
	埋込み長: 8da	埋込み長: 11da
D13	32	38
D16	48	59
D19	67	99
D22	90	134
D25	116	175

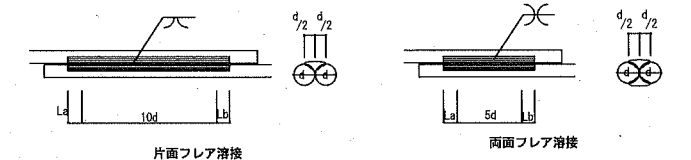
## 新設・増設壁上部グラウト要領

1. 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。
2. グラウト材は早強型特殊セメント系無収縮モルタルとし、割合はプレミックスとする。
3. グラウト材の設計基準強度は30N/mm<sup>2</sup>以上とする。割合はJIS R 5201(セメントの物理試験方法)のフロー試験によるモルタルのコンシステンシーに準じ、フロー値は180mm以上240mm未満とする。コンシステンシー試験は引張ロット試験法に準ずる。
4. 目荒しは平均深さ約5mm(最大で10~15mm)程度の凹凸を打ち継ぎ面の3/4~全面にわたって付けること。

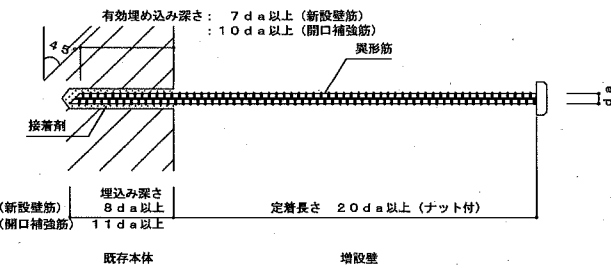
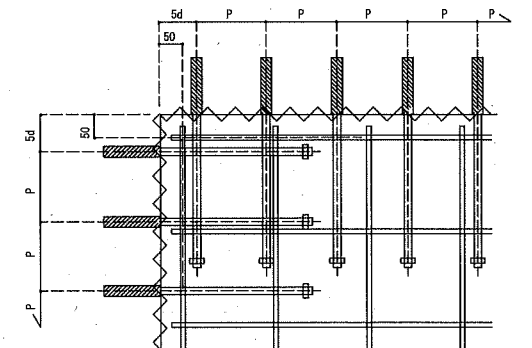


## 鉄筋フレア溶接要領

1. 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下面の片面または両面とする。
2. 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。但し、La及びLbは2d以上とする。

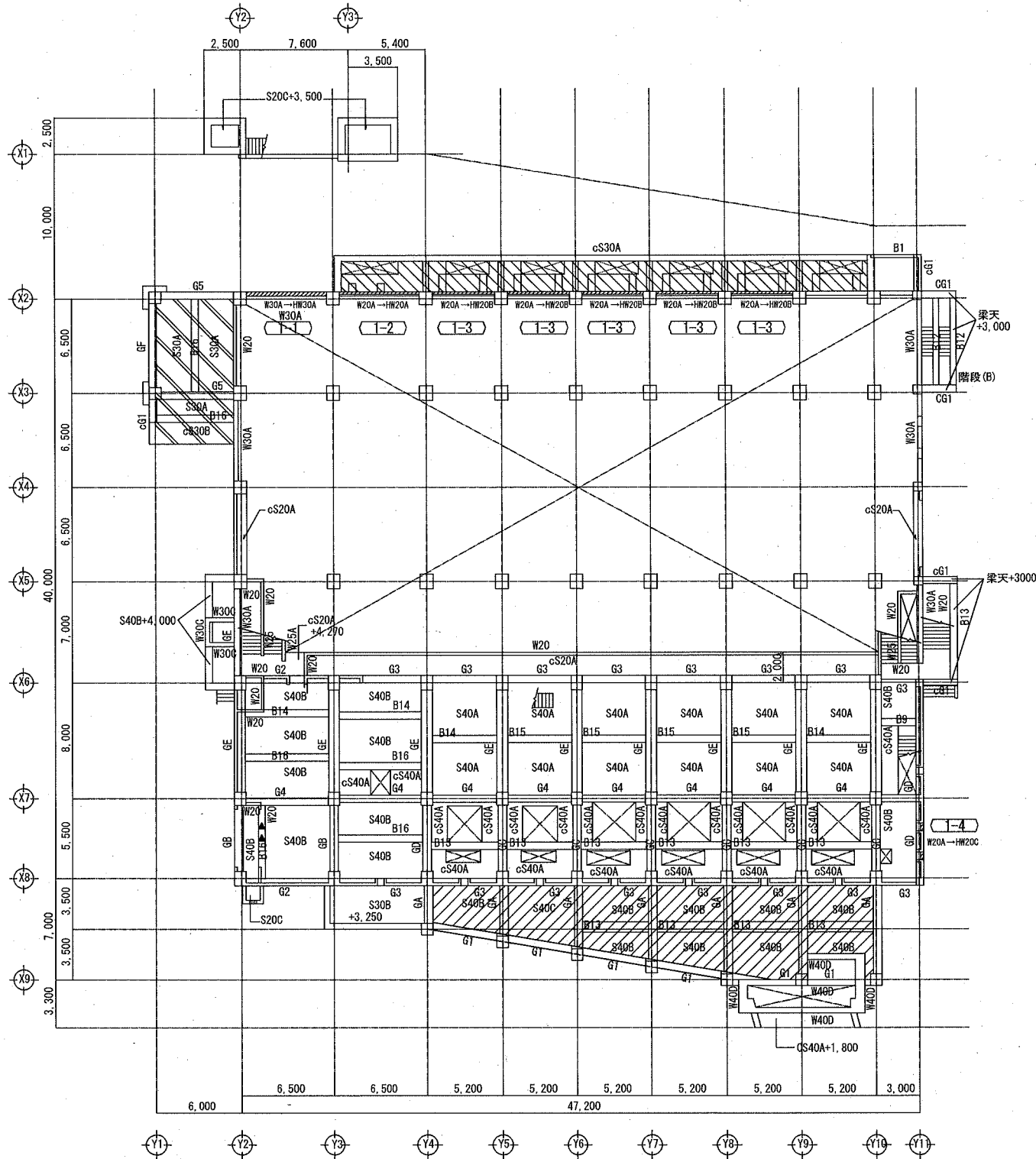


## アンカー筋ピッチ標準



## 接着系アンカー詳細図

工事名称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図面名称	構造細目共通図(3)		
縮尺	—	図面番号	S-3
製作年	令和2年8月		
課長	係長	担当者	設計者

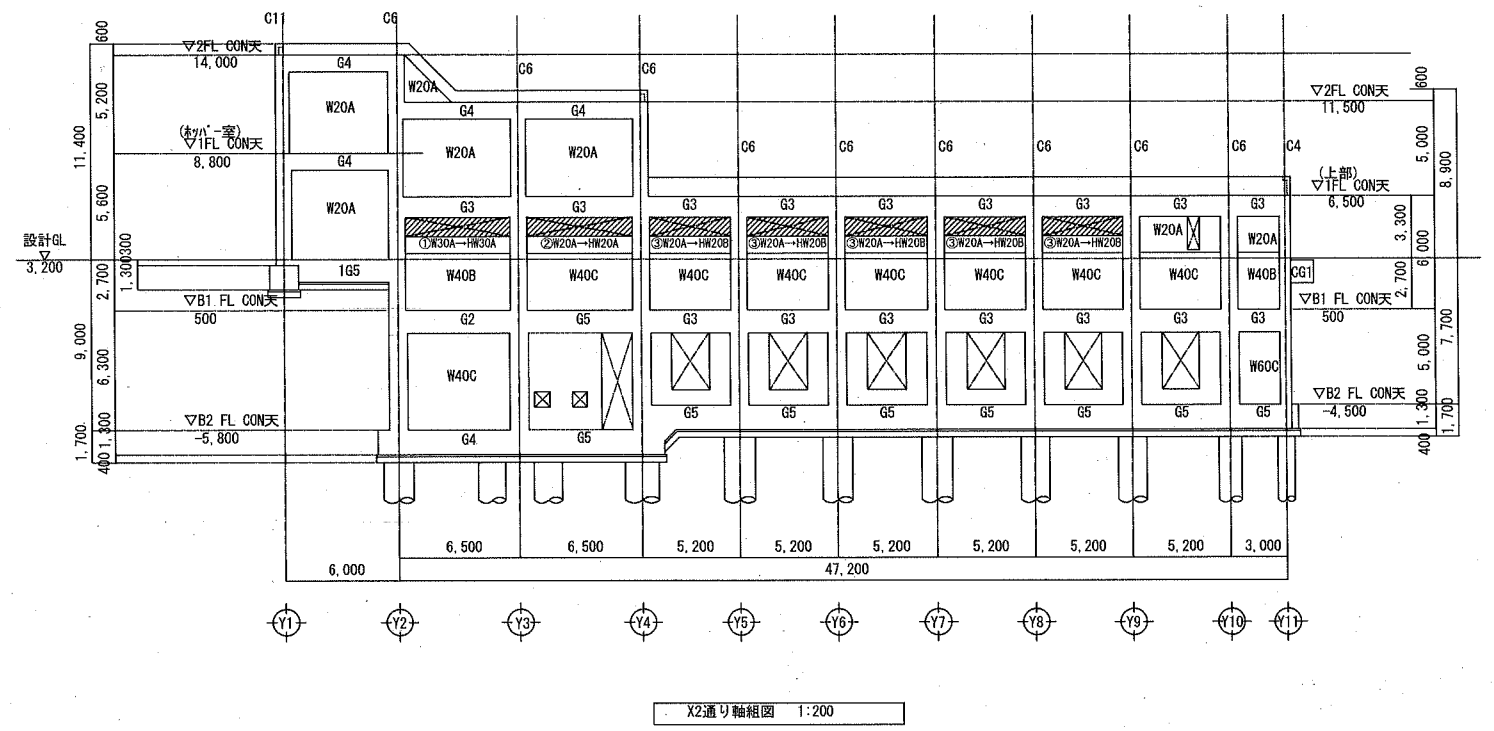


番号	既存壁符号	補強後壁厚	補強内容	補強壁符号
□-1	W30A	—	開口部閉塞	HW30A
□-2	W20A	—	開口部閉塞	HW20A
□-3	W20A	—	開口部閉塞	HW20B
□-4	W20A	—	開口部閉塞	HW20C

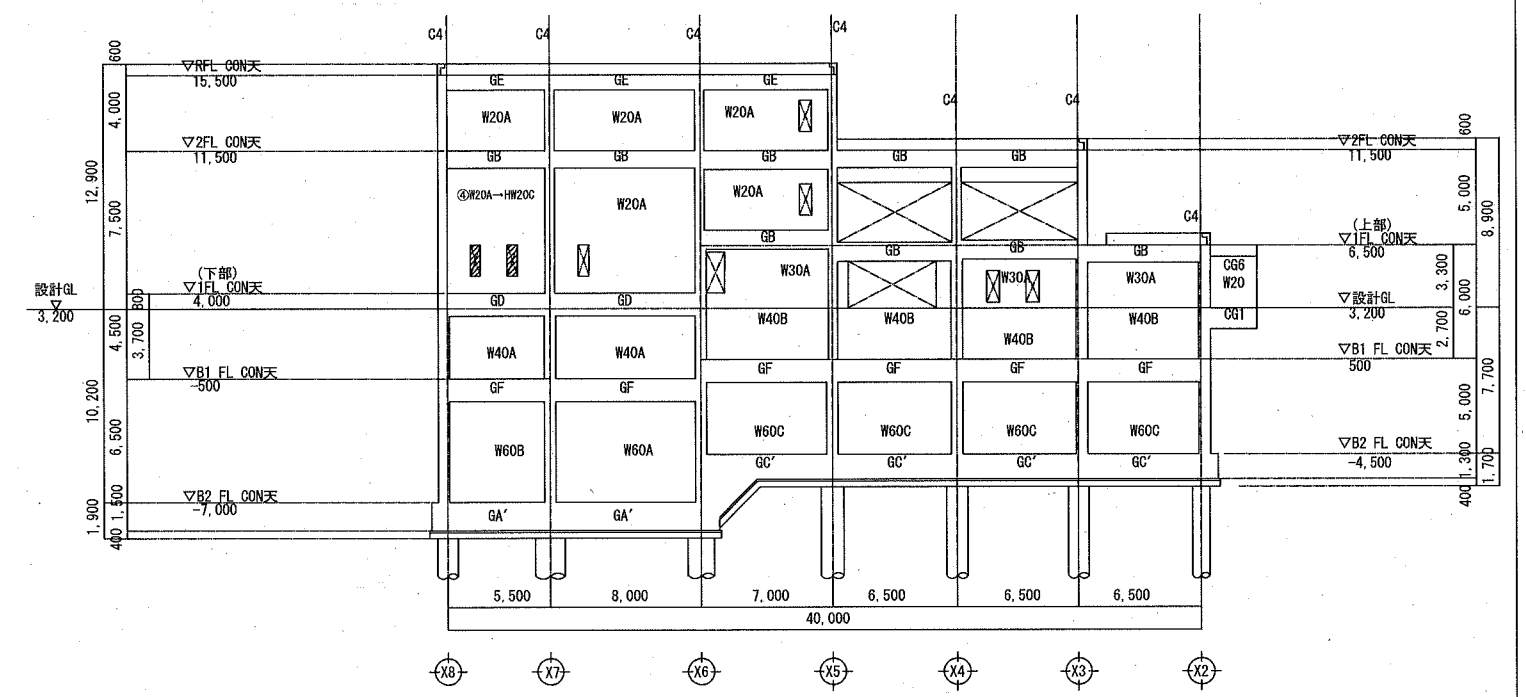
1階(下部) 伏図 1:200

特記なき限り内壁は W15, 外壁は W20Aとする  
 特記なき限り 梁 スラブ等は +4,000

一部分は +3,200  
 一部分は +3,300  
 一部分は +3,500



X2通り軸組図 1:200

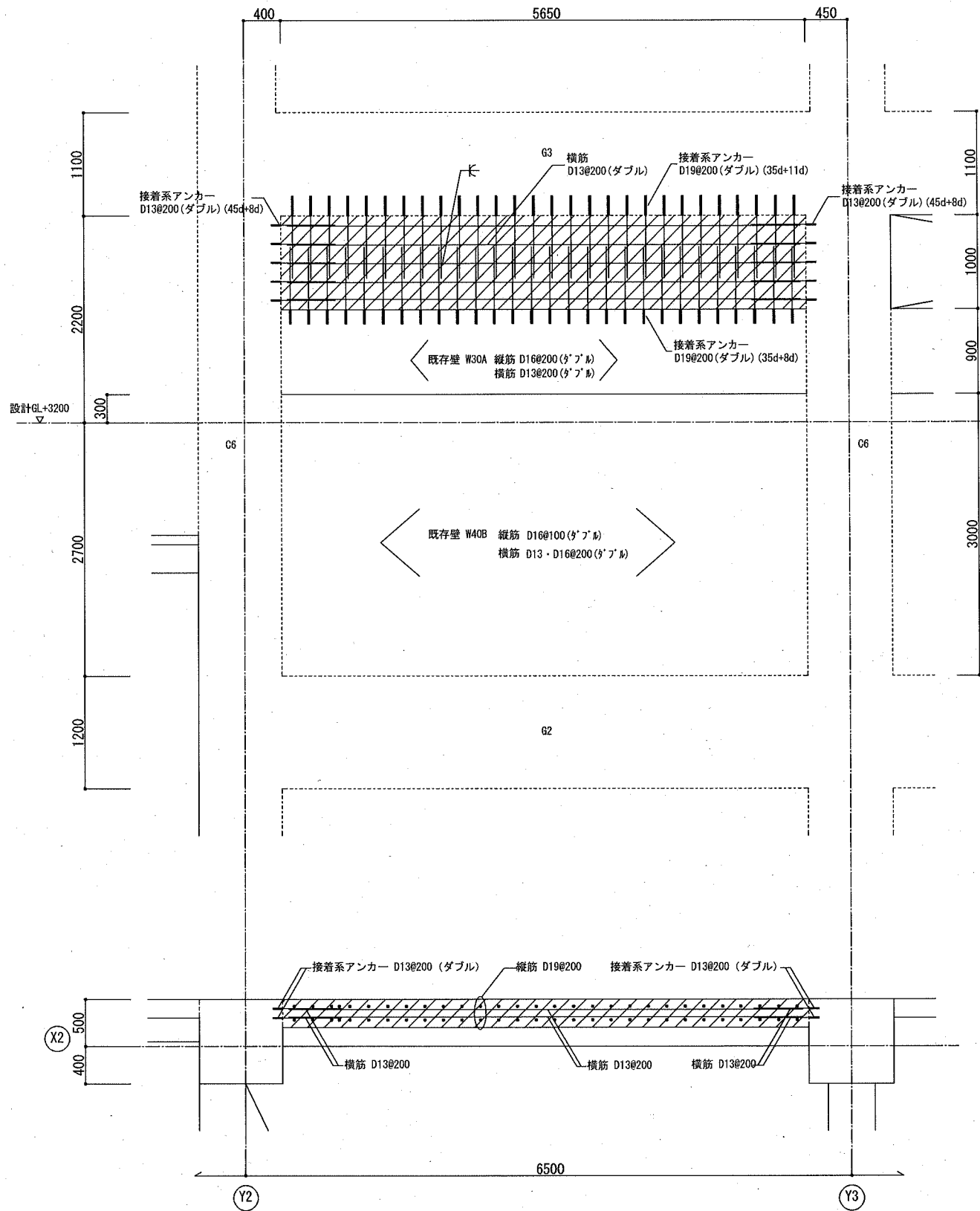


Y11通り軸組図 1:200

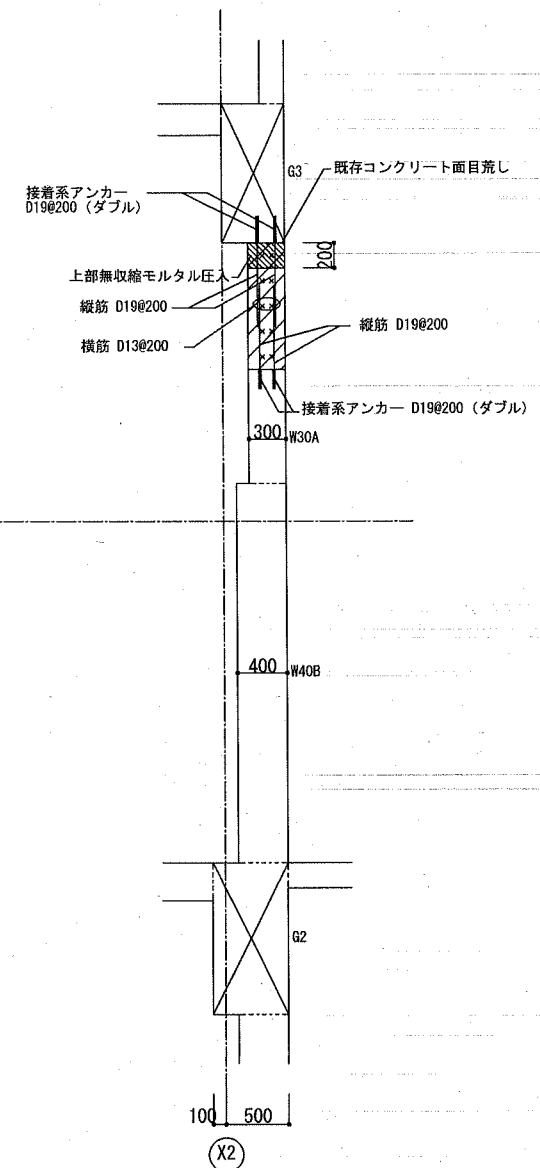
横須賀市上下水道局			
工名	事	舟倉第2ポンプ場	
図名	称	耐震補強建築工事	
縮尺	図面	伏図、軸組図	
製年	作月	1:200	番号 S-4
課長	係長	担当者	設計者
			令和2年8月



1-1 部 部分詳細図  
(W30A開口塞ぎ補強)



HW30A 詳細図

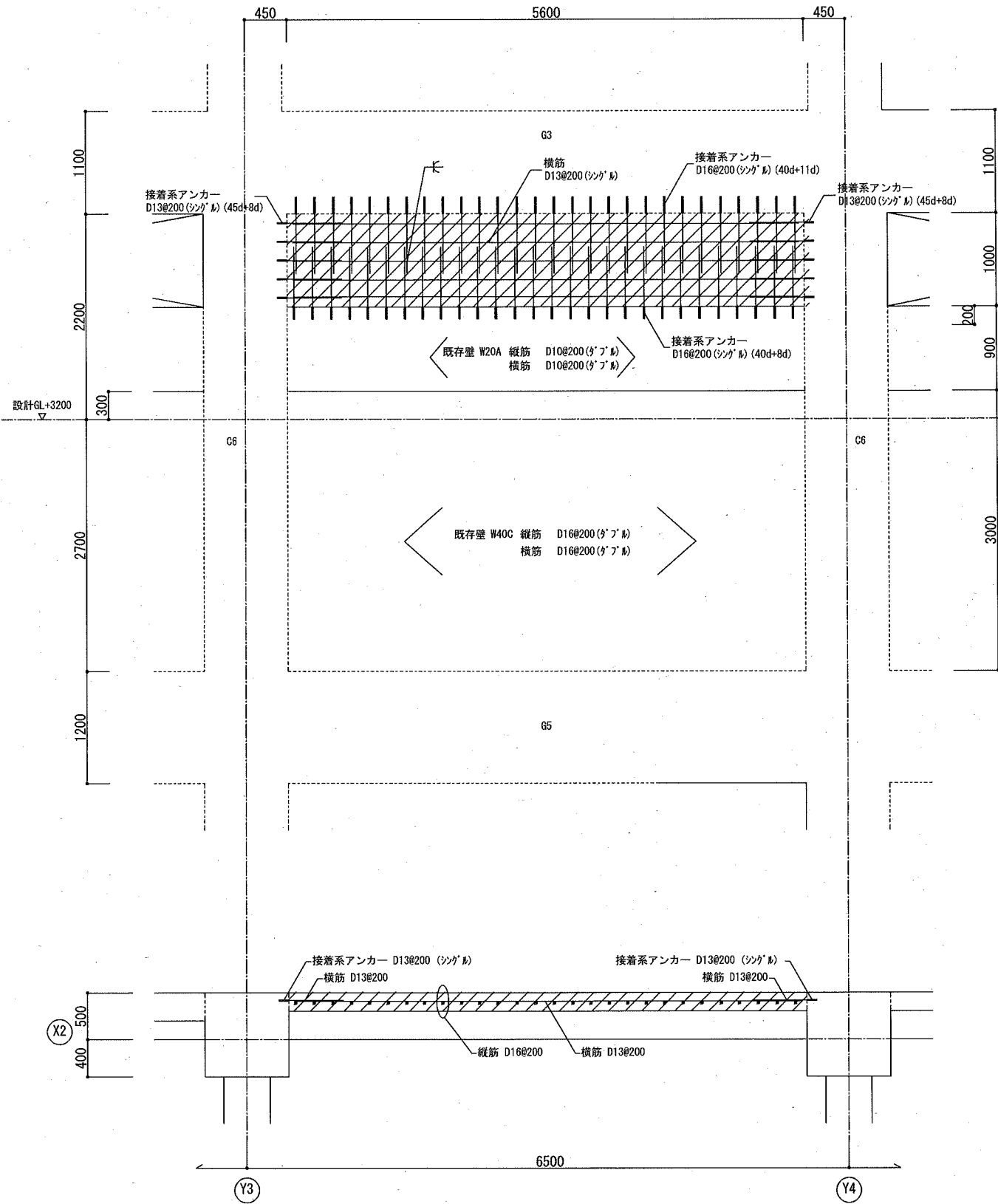


<凡例>

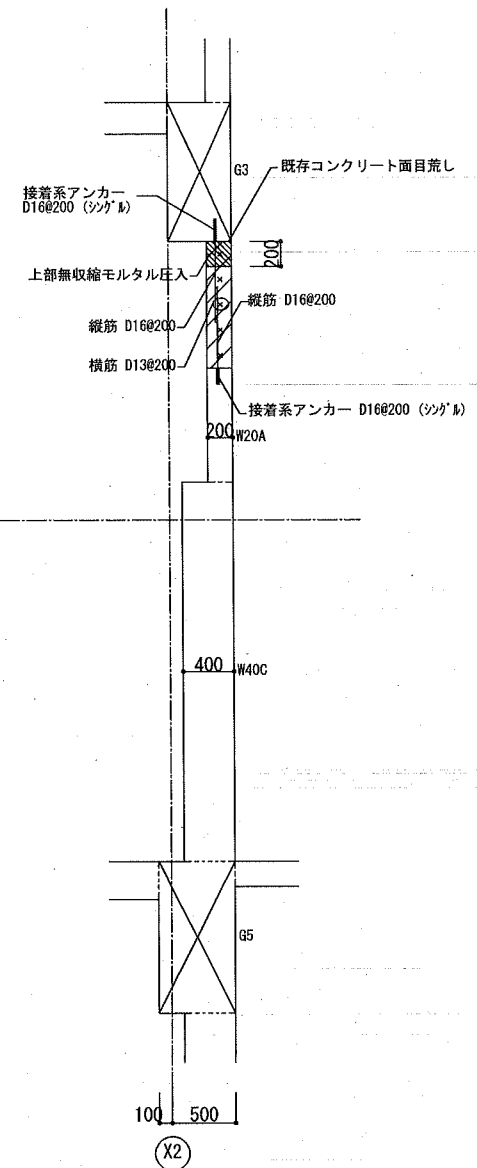
- 開口閉塞部分
- 無収縮モルタル

横須賀市上下水道局				
工名	事	舟倉第2ポンプ場		
図名	面	耐震補強建築工事		
縮尺	1:30	図番	S-5	
製年	作月	令和2年8月		
課長	係長	担当者	設計者	

1-2 部 部分詳細図  
(W20A開口塞ぎ補強)



HW20A 詳細図

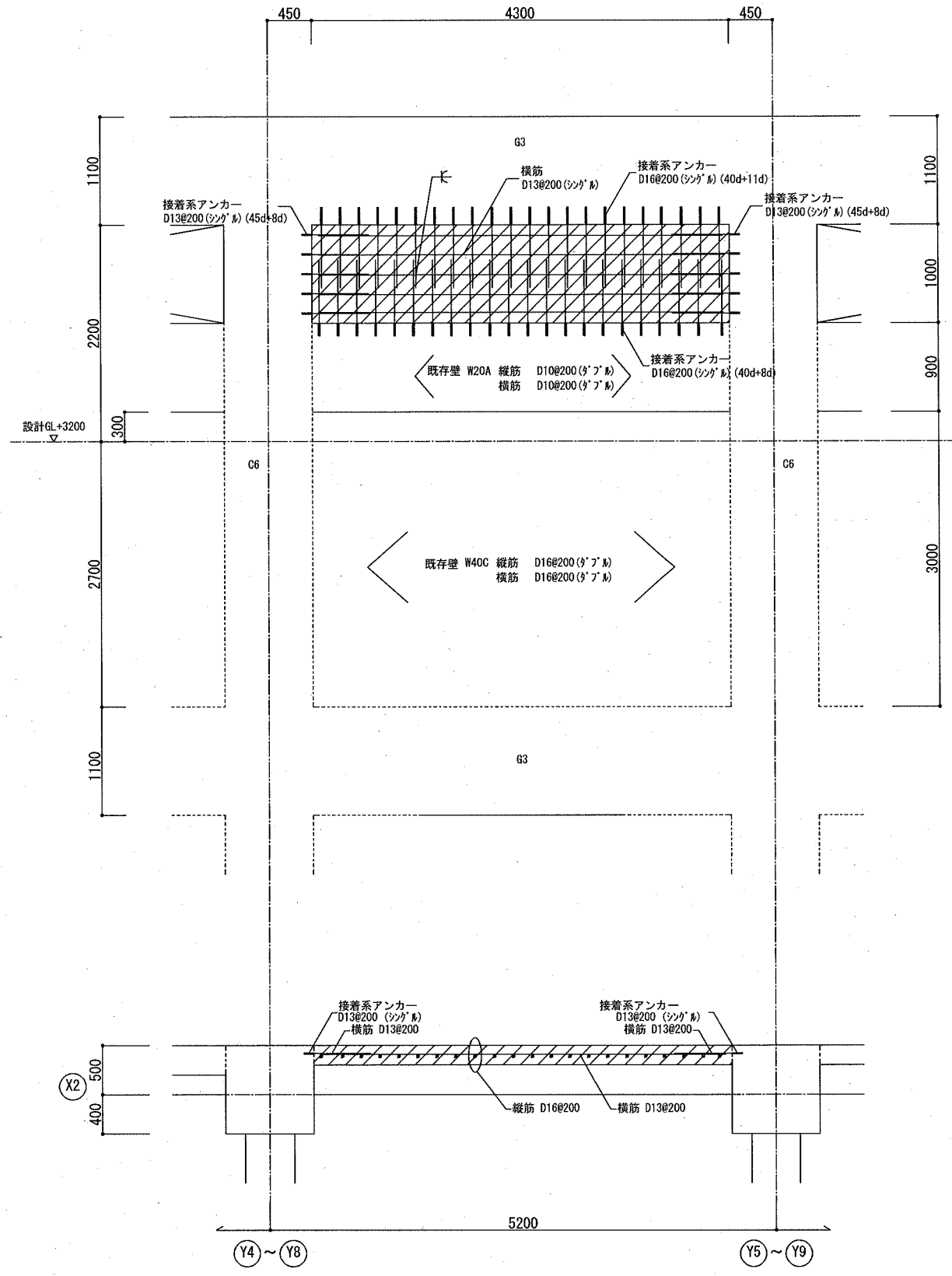


<凡例>

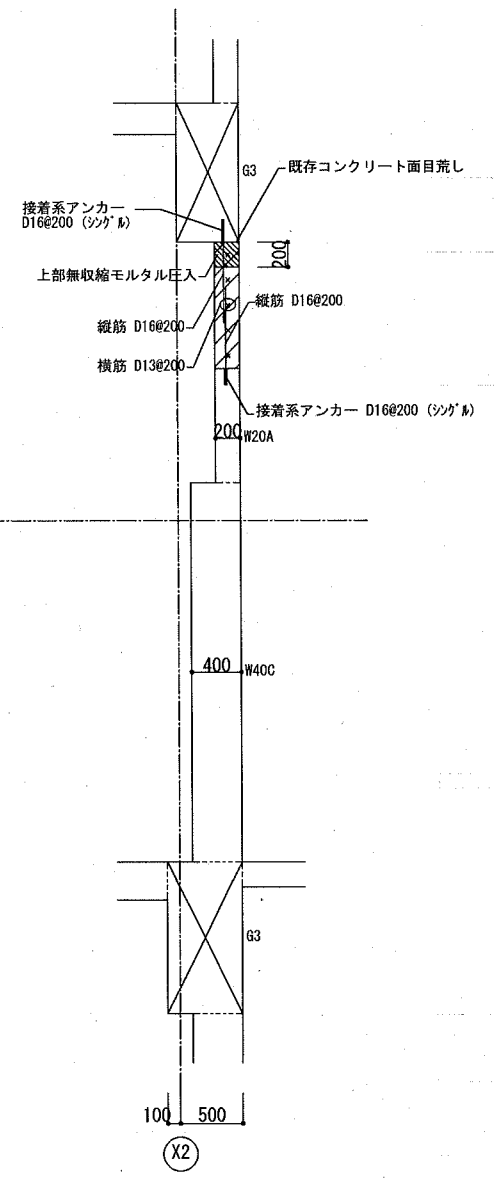
- 開口閉塞部分
- 無収縮モルタル

横須賀市上下水道局				
工名	事	舟倉第2ポンプ場		
名	称	耐震補強建築工事		
縮	尺	1:30	図	番
製	年	令和 2 年	作	月
課	長	係	長	担
				当
				者
				設
				計
				者

1-3 部 部分詳細図  
(W20A開口塞ぎ補強)



HW20B 詳細図

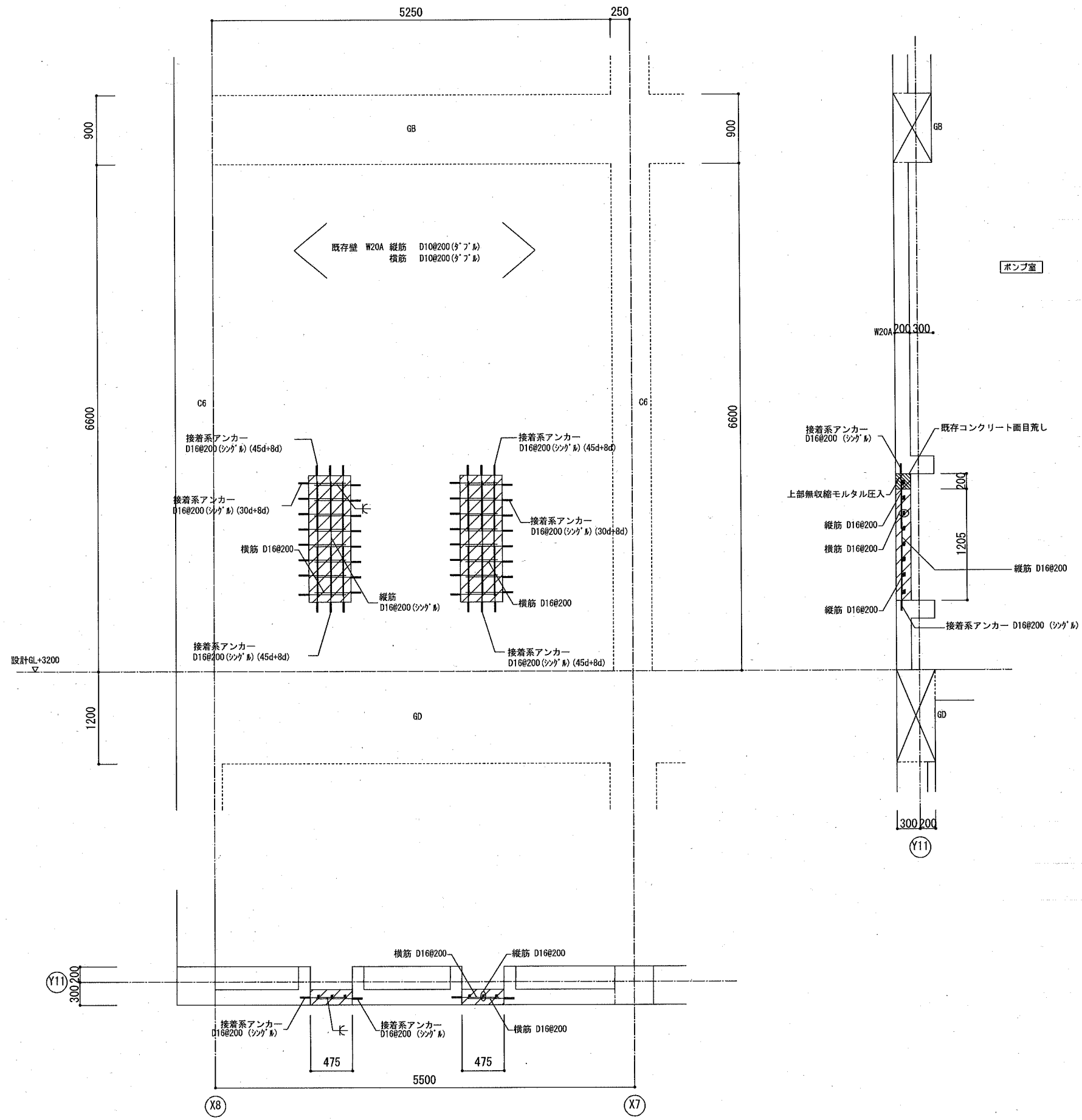


<凡例>

- 開口閉塞部分
- 無収縮モルタル

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事			
図 名	部分詳細図(3)			
縮 尺	1:30	図 番	S-7	
製 作 年 月	令和 2 年 8 月			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	

1-4 部 部分詳細図  
(W20A開口塞ぎ補強)



<凡例>

- 開口閉塞部分
- 無収縮モルタル

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	舟倉第2ポンプ場 耐震補強建築工事		
図 名	部分詳細図(4)		
縮 尺	1:30	図 番 号	S-8
製 作 年 月	令和 2 年 8 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者